



CP33

STAGE PIANO

取扱説明書

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。



警告

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

この製品の内部には、お客様が修理 / 交換できる部品はありません。点検や修理は、必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。

⚠ 警告

電源 / 電源アダプター



電源は必ず交流 100V を使用する。
エアコンの電源など交流 200V のものがあります。
誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



電源アダプターは、必ず指定のもの (PA-3C) を使用する。
(異なった電源アダプターを使用すると) 故障、発熱、
火災などの原因になります。



電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこり
をきれいに拭き取る。

感電やショートのおそれがあります。



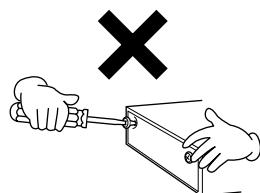
電源アダプターコードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。

電源アダプターコードが破損し、感電や火災の原因になります。

分解禁止



この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。
感電や火災、けが、または故障の原因になります。異常を感じた場合など、点検や修理は、必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。



水に注意



本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。
感電や火災、または故障の原因になります。



濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電のおそれがあります。

火に注意



本体の上にろうそくなど火気のあるものを置かない。
ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。

異常に気づいたら



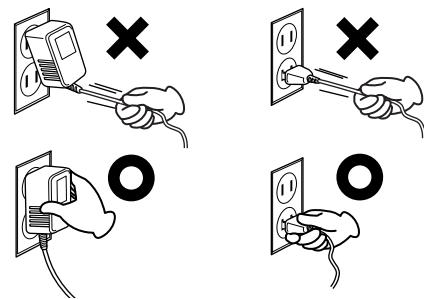
電源アダプターコード / プラグがいたんだ場合、または、使用中に音が出なくなったり異常なにおいや煙が出たりした場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。
感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

⚠ 注意

電源 / 電源アダプター



電源プラグを抜くときは、電源アダプターコードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。
電源アダプターコードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。

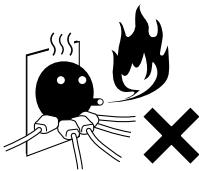




長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。
感電や火災、故障の原因になることがあります。



たこ足配線をしない。
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。



設置



直射日光のあたる場所（日中の車内など）やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しない。
本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したりする原因になります。



テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しない。
楽器本体または
テレビやラジオ
などに雑音が生じる場合があります。



不安定な場所に置かない。
本体が転倒して故障したり、お客様や他の方々がけがをしたりする原因になります。



本体を移動するときは、必ず電源アダプターコードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。
コードをいためたり、お客様や他の方々が転倒したりするおそれがあります。



この機器を電源コンセントの近くに設置する。
電源プラグに容易に手の届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

接続



他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行なう。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小にする。さらに、演奏を始める場合も必ず両機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げていき適切な音量にする。
感電または機器の損傷の原因になることがあります。



手入れ



本体を手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは使用しない。
本体のパネルや鍵盤が変色／変質する原因になります。お手入れには、乾いた柔らかい布、もしくは水を固くしぼった柔らかい布をご使用ください。

使用時の注意



本体のすき間に手や指を入れない。お客様がけがをするおそれがあります。



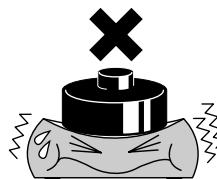
パネル、鍵盤のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。
感電、ショート、火災や故障の原因になることがあります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かない。
本体のパネルや鍵盤が変色／変質する原因になります。



本体の上にのったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。
本体が破損したり、お客様や他の方々がけがをしたりする原因になります。



大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。



- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源スイッチを切りましょう。
電源スイッチを切った状態、電源スイッチ「STANDBY」の状態でも微電流が流れています。スタンバイ時の消費電力は、最小限の値で設計されています。この製品を長時間使用しないときは必ず電源アダプターのプラグをコンセントから抜いてください。

はじめに

このたびはYAMAHA Stage Piano CP33をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。CP33の優れた機能を使いこなしていただくために、この取扱説明書をご活用いただきますようご案内申し上げます。

また、ご一読いただいたあとも不明な点が生じた場合に備えて、大切に保管いただきますようお願い申し上げます。

取扱説明書(本書)について

取扱説明書(本書)は、「準備編」、「本編」、「資料編」の3部構成になっています。

準備編(9ページ)

最初にお読みください。

本編(12ページ)

CP33の基本的な機能の使い方と操作を詳しく説明しています。

資料編(45ページ)

ボイスのご紹介などの資料を掲載しています。

表記上の決まり

- []パネル上にあるボタン類を示します。たとえば、マスター・ボリュームのダイアルは、文章中で [MASTER VOLUME] ダイアルと表記します。
- 「 」パネル中央の画面中の表示を示します。
- 用語CP33に関する用語や専門用語を説明しています。

*この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。

この製品は、ヤマハ(株)が著作権を有する著作物やヤマハ(株)が第三者から使用許諾を受けている著作物を内蔵または同梱しています。その著作物とは、すべてのコンピュータープログラムや、伴奏スタイルデータ、MIDIデータ、WAVEデータ、音声記録データ、楽譜や楽譜データなどのコンテンツを含みます。ヤマハ(株)の許諾を受けることなく、個人的な使用の範囲を越えて上記プログラムやコンテンツを使用することについては、著作権法等に基づき、許されていません。

- ・ヤマハ(株)および第三者から販売もしくは提供されている音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- ・Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- ・Macintoshは、米国および他の国々で登録されたApple Computer, Inc.の商標です。
- ・「MIDI」は社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- ・その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にいたしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わずとところで迷惑をかけてしまうことがあります。夜間の演奏には特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドフォンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

付属品

- 電源アダプター PA-3C
- フットペダル FC3
- 取扱説明書(本書)
- 保証書

特長

- 3段階のダイナミックサンプリング、サステインペダル使用時のボイス変化、鍵盤を離したときの微妙な発音などによりアコースティックピアノに極限まで近づけたハイクオリティーなピアノボイスを内蔵しています。
- ピアノの鍵盤に近い弾き心地を実現した88鍵のグレードハンマー鍵盤(GH鍵盤)を装備しています。
- 最大同時発音数は64音、ピアノボイスをはじめとするAWM音源による28種類のオリジナルボイスを内蔵しています。
- 演奏に豊かさや広がりをつけるリバーブ/エフェクトや、多様なMIDI機能を用意しています。
- 外部音源を最大2台までコントロールできるマスター機能を搭載しています。

目次

目的別目次	8
準備編	9
ご使用前の準備	9
電源の準備	9
スピーカーやヘッドフォンをつなぐ	9
電源を入れる	10
音量(ボリューム)を調節する	11
ペダルを使う	11
本編	12
各部の名称と機能	12
フロントパネル	12
リアパネル	14
デモ曲を聞く	15
いろいろなボイスを楽しむ	16
ボイスを選ぶ	16
音に変化をつける(バリエーション/ブリリアンス/リバーブ/エフェクト)	16
タッチ感を変える(タッチ)	18
ボイスを重ねる(デュアル)	19
鍵域を左右に分けて別々の2つのボイスで弾く(スプリット)	21
音のピッチを変える(ピッチベンドホイール)	22
音にビブラートをかける(モジュレーションホイール)	23
クリック機能を使う(クリック)	23
キー(調)を変える(トランスポーズ)	24
パネルロック機能	24
鍵域ごとにボリュームを変える(ゾーンコントロール)	25
マスター機能を使う	26
マスターに関する設定	27
マスターエディットでの基本操作	27
各マスターエディット項目の説明	28
マスター機能の設定を保存する	31
マスター機能を呼び出す	31
各種の便利な設定	32
各種の便利な設定をする(ファンクション)	32
ファンクションでの基本操作	33
各ファンクション項目の説明	35
コンピューターやMIDI機器と接続する	41
外部オーディオ機器との接続	41
外部MIDI機器との接続	41
コンピューターとの接続	43
資料編	45
困ったときは	45
ボイス一覧	46
初期設定一覧	47
ファンクションの初期設定一覧	48
マスター機能の初期設定一覧	49
メッセージ一覧	49
MIDIデータフォーマット	50
MIDIインプリメンテーションチャート(ボイス)	53
MIDIインプリメンテーションチャート(マスター)	54
仕様	55
索引	56

目的別目次

聞く

- ボイスごとのデモ曲が聞きたい 「デモ曲を聞く」 (15 ページ)

弾く

- ボイスを選んで弾きたい 「ボイスを選ぶ」 (16 ページ)
- ペダルを使い分けて弾きたい 「ペダルを使う」 (11 ページ)
- MIDI 音源を鳴らしわけたい 「マスター機能を使う」 (26 ページ)
- 正確なテンポで弾きたい 「クリック機能を使う (クリック)」 (23 ページ)

音を変える

- どんな音に変えられるのか知りたい 「ボイス一覧」 (46 ページ)
- ボイスを組み合わせたい 「ボイスを重ねる (デュアル)」 (19 ページ)
- 右手と左手を違う音で弾きたい 「鍵域を左右に分けて別々のボイスで弾く (スプリット)」 (21 ページ)
- 音に変化をつける 「音のピッチを変える (ピッチベンドホイール)」 (22 ページ)
「音にビブラートをかける (モジュレーションホイール)」 (23 ページ)
「音に変化をつける (バリエーション / ブリリアンス / リバーブ / エフェクト)」 (16 ページ)

設定する

- いろいろな機能をもっと細かく設定したい 「各種の便利な設定をする (ファンクション)」 (32 ページ)
- マスター機能を設定したい 「マスターに関する設定」 (27 ページ)

他の機器と接続して使う

- MIDIって何？ 「MIDI について」 (41 ページ)
- 複数の MIDI 機器とつなぎたい 「外部 MIDI 機器との接続」 (41 ページ)
- もっと大きな音を出したい 「外部オーディオ機器との接続」 (41 ページ)
- パソコンとつなぎたい 「コンピューターとの接続」 (43 ページ)

こんなときには

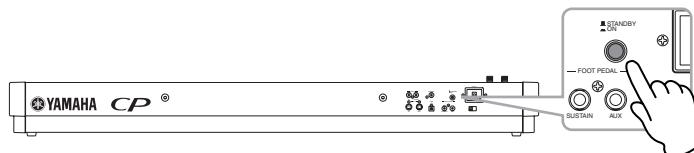
- 初期設定に戻したい 「初期設定 (初めて電源を入れたときの設定) に戻すには」 (40 ページ)
- わからないメッセージが表示されたら 「メッセージ一覧」 (49 ページ)
- CP33 が故障かな？ と思ったら 「困ったときは」 (45 ページ)

準備編

ご使用前の準備

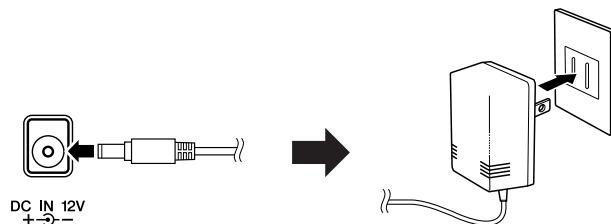
電源の準備

1 CP33リアパネルの[STANDBY/ON]スイッチをオフにします。



2 付属の電源アダプター PA-3CのDCプラグを、リアパネルの[DC IN 12V]端子に差し込む。

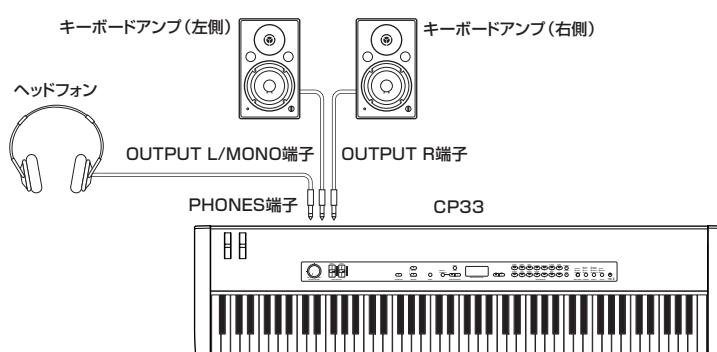
3 電源コードのもう一端のプラグを家庭用(AC 100V)コンセントに差し込みます。



- ! 電源アダプターは、必ず指定のもの(PA-3C)をご使用ください。異なった電源アダプターを使用すると故障、発熱、火災などの原因になります。
- ! 電源は必ずAC 100Vを使用してください。
- ! 長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

スピーカーやヘッドフォンをつなぐ

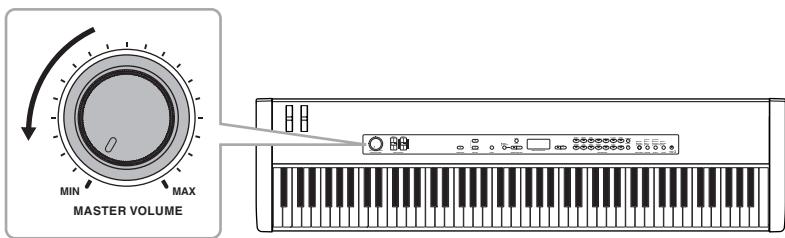
CP33にはスピーカーが内蔵されていません。音を出すためには、外部アンプやスピーカー、ヘッドフォンなどを接続してください。



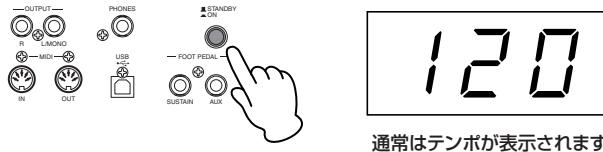
- ! ヘッドフォンをご使用の場合は、大きな音量で長時間使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

電源を入れる

接続が完了したら、本体パネル左[MASTER VOLUME]ダイアルがMINになっていることと外部機器の音量が0になっていることを確認します。



リアパネル左の[STANDBY/ON]スイッチを押して電源を入れてから、次にアンプの電源を入れます。本体パネル中央の画面に表示が現れます。



通常はテンポが表示されます

電源を切るときは、もう一度[STANDBY/ON]スイッチを押します。

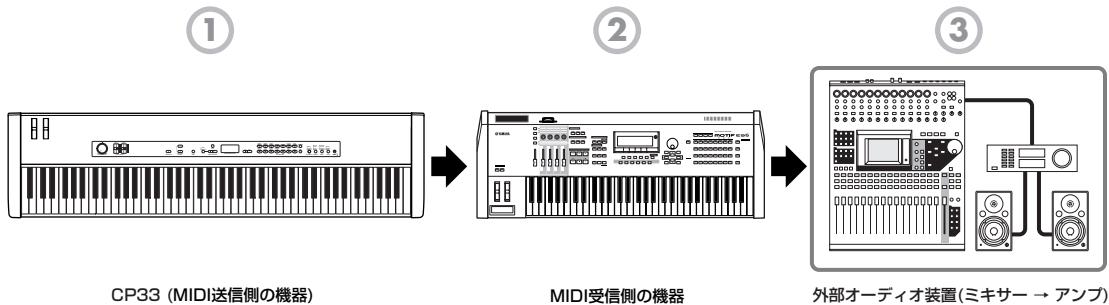
- 電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。CP33を長時間使用しないときは必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

MIDI機器やミキサーなどを接続している場合

すべての機器のボリュームが0になっていることを確認して、MIDI送信側の機器→MIDI受信側の機器→外部オーディオ機器(ミキサー→アンプ)の順で電源を入れてください。

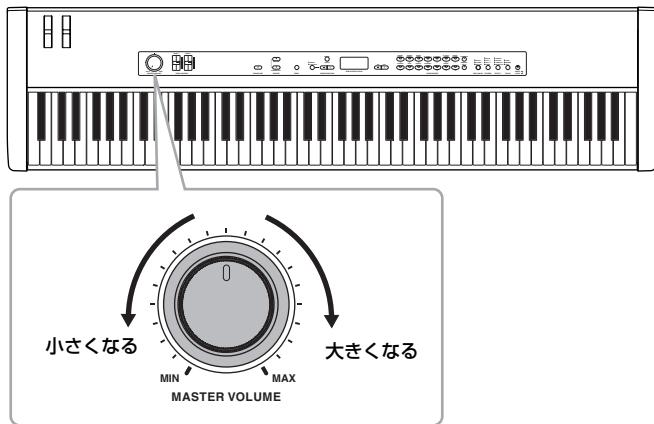
また、電源を切る場合は外部オーディオ機器のボリュームを下げ、逆の順番で切ってください。

例) CP33がMIDI送信側の機器の場合



音量(ボリューム)を調節する

CP33やアンプのボリュームを最適な位置で調節します。実際に鍵盤を弾いて音を出しながら、音量を調節してください。

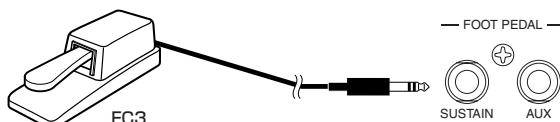


NOTE [MASTER VOLUME]ダイアルで[PHONES]端子の出力レベルも調節できます。

NOTE 電源を切る場合は、外部機器の電源を切るかボリュームを下げてから、CP33の電源を切ります。

用語: MASTER VOLUME (マスター音量)=全体の音量

ペダルを使う



! ペダルの抜き差しは、電源を切った状態で行ってください。

サステインペダル(SUSTAIN PEDAL端子)

電源を切った状態で付属のフットペダルFC3を接続します。このペダルを踏んでいる間、弾いた音を、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。またFC3はハーフペダル対応ですので、踏み込むほど音が長く伸びます。

CP33では[GRAND PIANO 1](VARIATIONを含む)、[MONO PIANO](VARIATIONを含まない)のボイスで、サステインペダルを踏むと、ピアノのダンパーペダルを踏んだときの響板や弦の共鳴効果(サステインサンプリング)が加わります。

なお別売のフットスイッチFC4/FC5も接続できますが、その場合ハーフペダルは対応しません。

NOTE ファンクションでサステインペダルの共鳴効果の深さを調節できます(37ページ)。

AUXペダル(AUX PEDAL端子)

付属のフットペダルFC3や別売のフットスイッチFC4/FC5、フットコントローラーFC7を接続する端子です。ソフトペダル機能などいろいろな機能を割り当てて使用することができます。機能の割り当てはファンクションで行ないます(37ページ)。

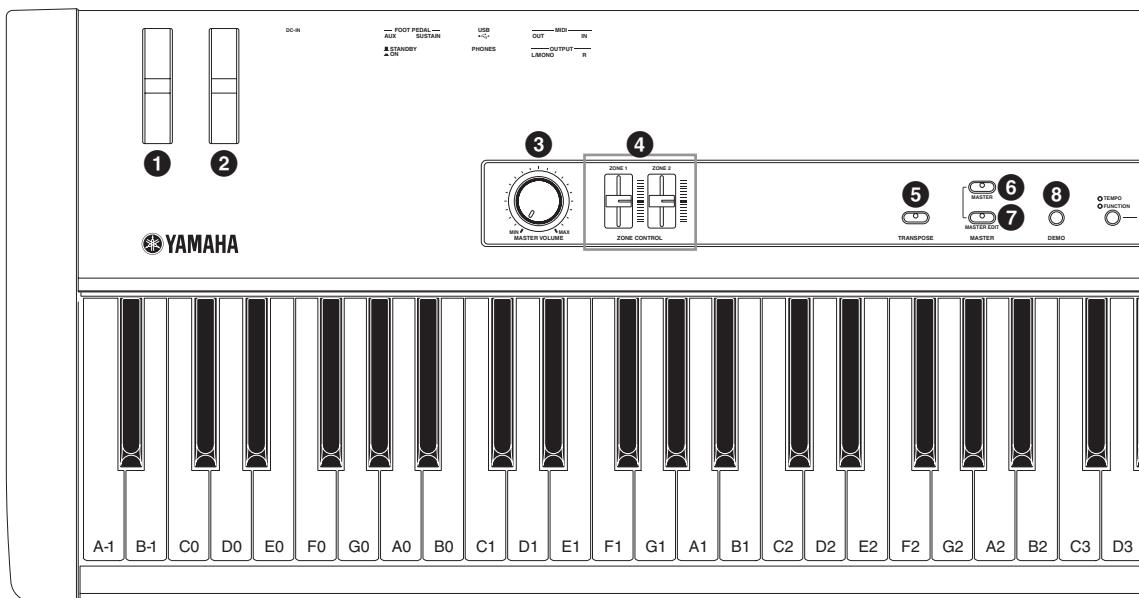
NOTE フットコントローラーFC7は「エクスプレッション」をコントロールする場合に使用します(37ページ)。

本編

各部の名称と機能

フロントパネル

本編



- ① **ピッチベンドホイール** (22ページ)
ピッチベンド効果のアップ/ダウンをコントロールします。

- ② **モジュレーションホイール** (23ページ)
モジュレーション効果をコントロールします。

- ③ **[MASTER VOLUME]ダイアル** (11ページ)
音量を調節します。

- ④ **[ZONE CONTROL]スライダー** (25ページ)
2つのスライダーを操作することで、最大2つのレイヤーパートの音量の調節をします。[MASTER]ボタンをオンにすることにより、[ZONE CONTROL]スライダーの機能が切り替わります。

- ⑤ **[TRANSPOSE]ボタン** (24ページ)
弾く鍵盤の位置を変えずに、他の楽器や歌う人の声の高さに合わせて、キー(調)を簡単に変えることができます。

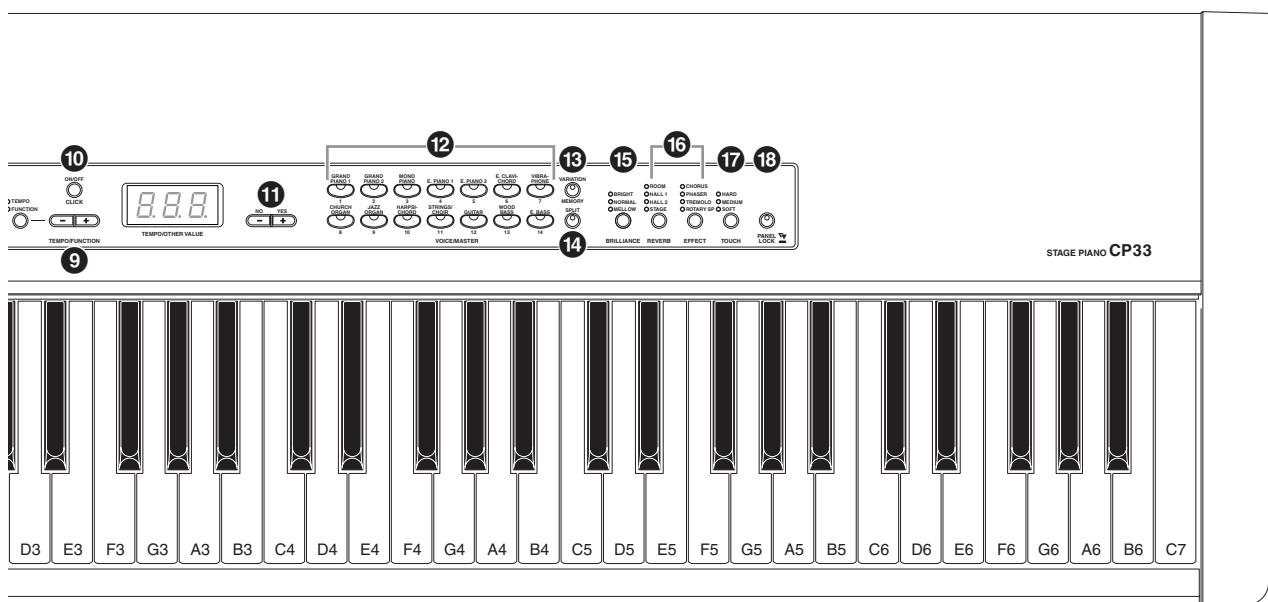
- ⑥ **[MASTER]ボタン** (26ページ)
[MASTER]ボタンをオンにすると、マスターキーボードとしての機能に切り替わります。

- ⑦ **[MASTER EDIT]ボタン** (27ページ)
マスター機能をオンにしたときの設定ができます。

- ⑧ **[DEMO]ボタン** (15ページ)
ボイスごとのデモ曲を聞くことができます。

- ⑨ **テンポ ファンクション [-] [+]ボタン** (33ページ)
クリックのテンポを調節したり、各種の便利な機能を利用したりします。

- ⑩ **[CLICK]ボタン** (23ページ)
クリック機能のオン/オフを切り替えます。



⑪ [NO/-][YES/+]ボタン (24ページ)

数値を設定したり項目を選んだりできます。テンポやトランスポーズなどの値を設定しているときにボタンを2つ同時に押すと、元の値(初期設定値)に戻すことができます。

⑫ ボイスボタン (16ページ)

クランドピアノをはじめとした28種類のボイスをお楽しみいただけます。また、[MASTER]ボタンをオンにすると、[MASTER EDIT]ボタンで設定した内容を各ボイスボタンに記録できます。

⑬ [VARIATION/MEMORY]ボタン (16ページ)

[VARIATION]ボタンをオンにすることで、選んだボイスを違った表情の音にします。また、[MASTER]ボタンをオンにすると、マスターに関する設定を保存する機能に切り替わります。

⑭ [SPLIT]ボタン

鍵盤を左右に分けて、別々のボイスを演奏できます。

⑮ [BRILLIANCE]ボタン

音の明るさを調節できます。

⑯ [REVERB]ボタン

⑰ [EFFECT]ボタン (18ページ)

音に残響(リバーブ)や、効果(エフェクト)をかけたりすることができます。

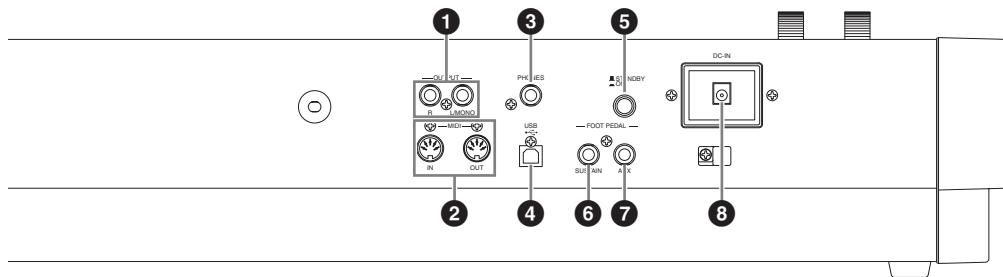
⑱ [TOUCH]ボタン

弾く強さに対する音の強弱の付き方(タッチ感)の調節できます。

⑲ [PANEL LOCK]ボタン

パネルロックのオン/オフを切り替えます。オンにするとパネル操作を無効にします。

リアパネル



① [OUTPUT [L/MONO][R]]端子 (41ページ)

オーディオ信号を出力する端子(標準ジャック)です。
モノラル出力したい場合は、L/MONO端子だけに接続します。

② [MIDI [IN][OUT]]端子 (41ページ)

MIDI機器を接続する場合に使います。

③ [PHONES]端子 (9ページ)

ヘッドフォンを接続します。

④ [USB]端子 (43ページ)

コンピューターに接続する場合に使います。

⑤ [STANDBY/ON]スイッチ (9、10ページ)

スイッチを押して電源を入れます。
ボタンが □ の場合、電源が入っています。■ の場合、電源が切れています。

⑥ [SUSTAIN PEDAL]端子 (11ページ)

付属のフットペダルFC3を接続します。または、別売のフットスイッチFC4/FC5も接続できます。

⑦ [AUX PEDAL]端子 (11ページ)

別売のフットスイッチFC4/FC5やフットコントローラーFC7を接続します。付属のフットペダルFC3も接続できます。

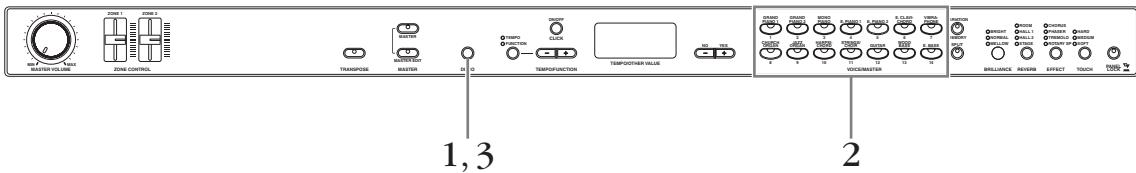
⑧ [DC IN 12V]端子 (9ページ)

付属の電源アダプター PA-3Cを接続します。

デモ曲を聞く

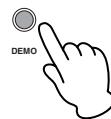
CP33には、ボイスごとに1曲ずつデモ曲が入っています。聞いてみましょう。

NOTE 「ご使用前の準備」(9ページ)を参照して接続などのセットアップ作業を行ない、CP33の音が出る状態にしてください。



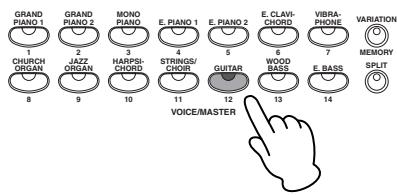
1 ^{デモ}[DEMO]ボタンを押す

ボイスボタンのランプが流れるように点滅したあと、GRAND PIANO 1の曲が再生されます。その後、ストップ操作(手順3)をするまで各ボイス用に準備されたデモ曲が順番に再生されます。



2 聞きたいデモ曲のボイスボタンを押す

選んだボイスボタンが点灯し、デモ曲の再生がスタートします。



3 ^{デモ}[DEMO]ボタンを押して、再生をストップする

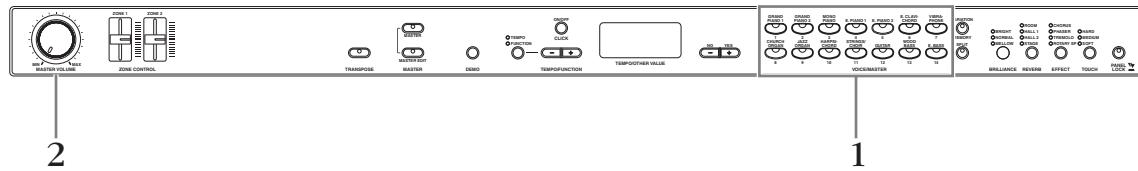


NOTE デモ曲の再生データはMIDI送信されません。また、デモ曲再生中はMIDI受信を行いません。

NOTE デモ曲では、テンポの調節はできません。

いろいろなボイスを楽しむ

ボイスを選ぶ



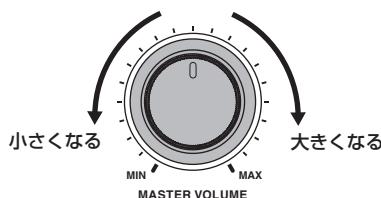
1 使いたいボイスボタンを押す

ランプが点灯します。

NOTE [MASTER]ボタンがオフの場合は、オフにします。マスター機能については、26ページをご参照ください。

2 [MASTER VOLUME] ダイアルで音量を調節する

鍵盤を弾いてみましょう。

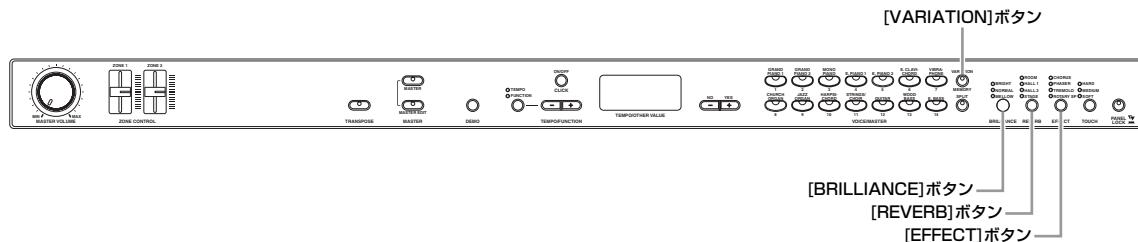


用語: VOICE (ボイス)=音色

NOTE ボイスの特徴をつかむには、ボイスごとのデモ曲を聞いてみてください(15ページ)。「ボイス一覧」(46ページ)もご参照ください。

NOTE タッチにより音の強弱を付けることができますが、ボイスによっては音の強弱が付かないものがあります。「ボイス一覧」(46ページ)をご参照ください。

音に変化をつける(バリエーション/ブリリアンス/リバーブ/エフェクト)



バリエーション

違った表情の音にします。ボイスごとのバリエーションの特徴については、「ボイス一覧」(46ページ)をご参照ください。

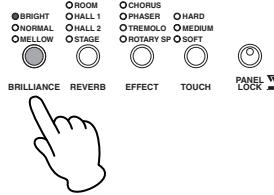
操作

[VARIATION]ボタンまたは選ばれているボイスボタンを押すごとにオン/オフが切り替わります。バリエーションのオン/オフは、ボイスごとに設定できます。ボイスを変更すると、自動的にバリエーションのオン/オフも切り替わります。オンの場合は、[VARIATION]ボタンが点灯します。

□初期設定: オフ

ブリリアンス

音質を調節して違った表現の音にします。BRIGHTでは明るく鋭い音になり、MELLOWにすると柔らかくまろやかな音になります。



BRIGHT (ブライト)明るく鋭い音になります。

NORMAL (ノーマル)標準的な音質です。

MELLOW (メロー)柔らかくまろやかな音になります。

操作

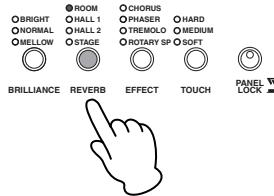
[BRILLIANCE]ボタンを押すごとに音質が切り替わります。

選ばれている種類のランプが点灯します。ブリリアンスは、3種類の音質が選べます。

□初期設定: Normal

リバーブ

音に残響を付けます。種類により、その場所で演奏しているような臨場感を味わえます。その深さ(かかり具合)を変えることもできます。



オフリバーブはかかりません。

ROOM (ルーム)部屋の中にいるような響きになります。

HALL 1 (ホール1)小さいコンサートホールにいるような響きになります。

HALL 2 (ホール2)大きいコンサートホールにいるような響きになります。

STAGE (ステージ)ステージにいるような響きになります。

操作

[REVERB]ボタンを押すごとに種類が切り替わります。

選ばれている種類のランプが点灯します。オフの場合はどのランプも点灯しません。

□初期設定: ボイスごとにリバーブの種類(オフも含む)はあらかじめ設定されています。

深さ(かかり具合)を変える

[REVERB]ボタンを押している間は画面にリバーブの深さの値が表示されます。

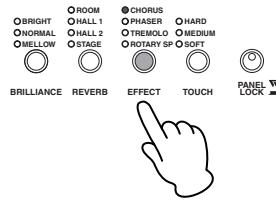
ボイスごとに標準の深さがあらかじめ設定されています。

[REVERB]ボタンを押したまま[NO/-]または[YES/+]ボタンを押すと、深さ0(効果なし)から20(最大)まで変わります。

NOTE リバーブの種類は[REVERB]ボタンを押して離したときに切り替わります。[REVERB]ボタンを押したまま深さを変更したときは、[REVERB]ボタンを離しても種類は切り替わりません。

エフェクト

音に効果を付け加えます。
その深さ(かかり具合)を変えることもできます。



- オフ エフェクトはかかりません。
 CHORUS (コーラス) 広がり感を付けます。
 PHASER (フェーザー) うねりを持たせます。
 TREMOLO (トレモロ) 音量を揺らします。
 ROTARY SP (ロータリースピーカー) ... ロータリースピーカー(回転スピーカー)を使ってているようなビブラート感が得られる効果です。

操作

[EFFECT]ボタンを押すごとに種類が切り替わります。
選ばれている種類のランプが点灯します。オフの場合はどのランプも点灯しません。

□初期設定: ボイスごとにエフェクトの種類(オフも含む)はあらかじめ設定されています。

深さ(かかり具合)を変える

[EFFECT]ボタンを押している間は画面にエフェクトの深さの値が表示されます。
ボイスごとに標準の深さがあらかじめ設定されています。
 [EFFECT]ボタンを押したまま[NO/-]または[YES/+]ボタンを押すと、深さ0(効果なし)から20(最大)まで変わります。

NOTE エフェクトの種類は[EFFECT]ボタンを押して離したときに切り替わります。[EFFECT]ボタンを押したまま深さを変更したときは、[EFFECT]ボタンを離しても種類は切り替わりません。

タッチ感を変える(タッチ)

弾く強さに対する音の強弱の付き方(タッチ感)を4種類から選びます。使うボイスや演奏する曲、好みによって使い分けてください。

- HARD (ハード) 強いタッチで弾かないと大きい音が出にくい設定です。ピアニッシモからフォルティッシモまで表現豊かな演奏ができます。
 MEDIUM (ミディアム) 標準的なタッチです。
 SOFT (ソフト) 軽いタッチで大きい音を出すことができます。比較的音のつぶがそろいやすいタッチです。
 FIXED (フィックス) タッチによる音の強弱は付かず、一定の音量が出ます。その場合の音量を任意に設定することもできます。

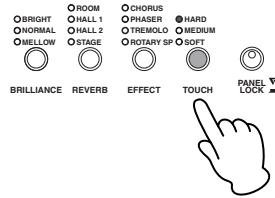
NOTE 鍵盤自体の重さは変わりません。

用語: HARD (ハード)=強い
 MEDIUM (ミディアム)=中間の、中位の
 SOFT (ソフト)=やさしい、柔らかい
 FIXED (フィックス)=固定された

操作

[TOUCH]ボタンを押すごとに種類が切り替わります。

選ばれている種類のランプが点灯します。FIXEDのときは、どのランプも点灯しません。



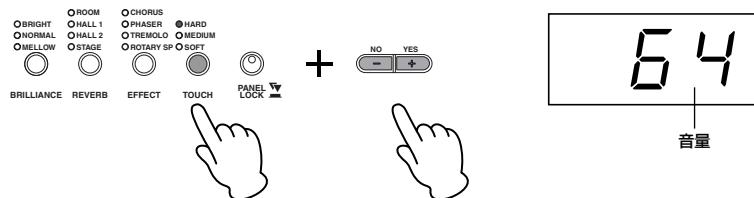
□初期設定: MEDIUM

NOTE タッチの種類は全ボイスに共通の設定となります。ただし、ボイスによっては、ここで設定にかかわらず、タッチによる音の強弱がつかないものもあります。「ボイス一覧」(46ページ)をご参照ください。

FIXEDの場合の音量を変える

FIXEDを選んでいるとき(どのランプも点灯していないとき)、[TOUCH]ボタンを押している間は画面に音量を示す値が表示されます。

[TOUCH]ボタンを押したまま[NO/-]または[YES/+]ボタンを押すと、音量を示す値が1(最小音量)から127(最大音量)まで変わります。



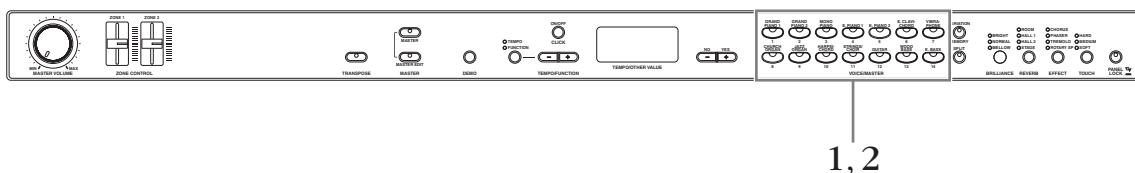
□初期設定: 64

NOTE FIXEDの場合の音量も全ボイスに共通の設定となります。

タッチの種類は[TOUCH]ボタンを押して離したときに切り替わります。[TOUCH]ボタンを押したままFIXEDの場合の音量を変更したときは、[TOUCH]ボタンを離しても種類は切り替わりません(FIXEDのままとなります)。

ボイスを重ねる(デュアル)

ボイスを重ねる機能をデュアルといいます。同系統のボイスを鳴らせば、厚みのある音を作り出せます。

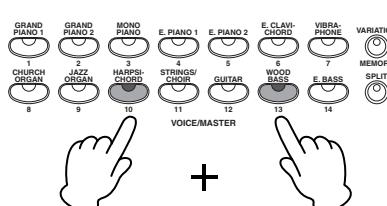


NOTE [MASTER]ボタンがオフの場合は、オフにします。マスター機能については、26ページをご参照ください。

1 2つのボイスボタンを同時に押して(または1つのボイスボタンを押したままもう1つのボイスボタンを押して)、デュアルに入る

2つのボイスボタンのランプが点灯します。

鍵盤を弾いてみましょう。



デュアルでのオクターブやエフェクトの深さの設定をはじめとした、いろいろな設定が「ファンクションF3」(36ページ)でできます。特に設定しなくとも基本の設定がボイスごとに自動的に選ばれます。

2 別のボイスボタンを押すと、デュアルを抜ける

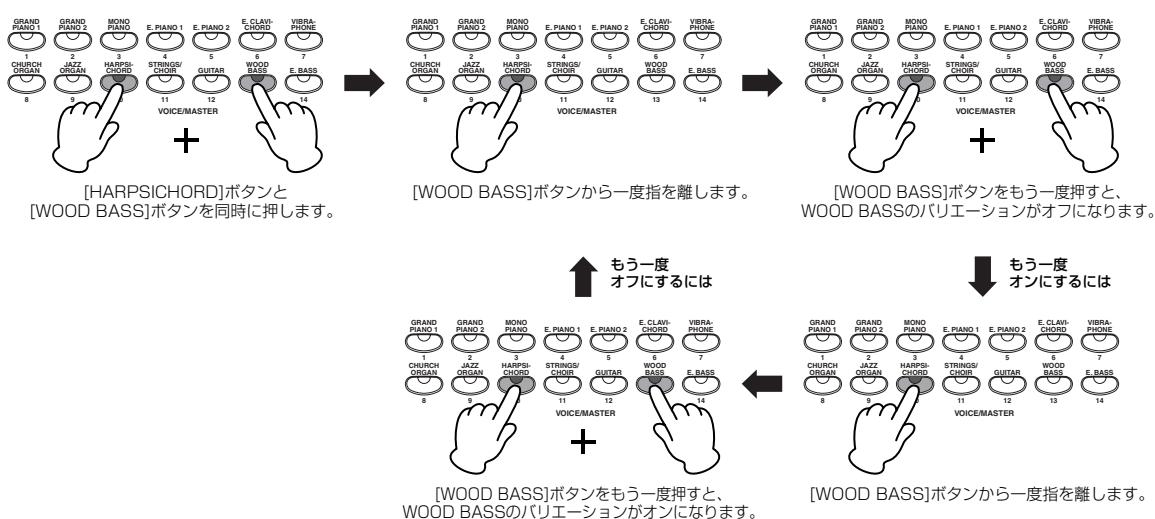
デュアルのときのバリエーション[VARIATION]

両方または片方のボイスのバリエーションがオンになっているときにランプが点灯します。両ボイスともオフの場合には消灯します。

その後[VARIATION]ボタンを押すごとに両ボイスともオン、両ボイスともオフを切り替えることができます。

片方だけオン/オフを切り替えたい場合は、2つのボイスボタンを押したまま、バリエーションを切り替えたい方のボタンの指を一度離し、もう一度ボタンを押します。

例：(HARPSICHORDボイスとWOOD BASSボイスがオンの状態から)WOOD BASSのバリエーションのオフ/オンを切り替えたい場合

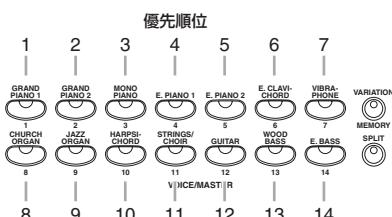


デュアルのときのリバーブ[REVERB]

第1ボイスのリバーブの種類が、優先されます。第1ボイスのリバーブの種類がオフの場合は、第2ボイスのものになります。深さの調節(17ページ)は、第1ボイス/第2ボイスに影響します。

デュアルを抜けたとき変更した深さの値は、第1ボイスだけに影響します。

下記の優先順位で番号の若いボイスを第1ボイス、もう一方を第2ボイスと呼びます。



デュアルのときのエフェクト[EFFECT]

状況に応じて1つのエフェクトの種類が優先されます。

深さは、ボイスの組み合わせごとに初期設定を持っていますが、「ファンクションF3」(36ページ)でボイスごとに任意に設定することもできます。パネルでの深さの調節(18ページ)は、第1ボイス/第2ボイスに影響します。

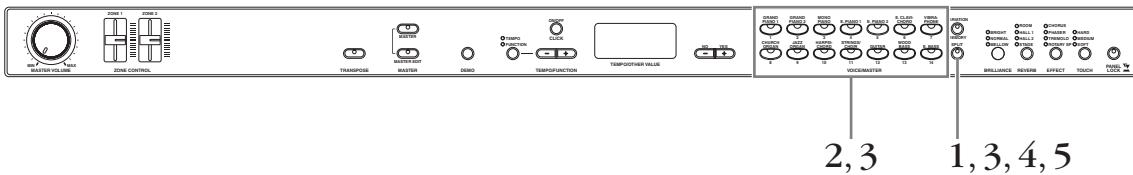
デュアルを抜けたとき変更した深さの値は、第1ボイスだけに影響します。

NOTE デュアルとスプリット

デュアル(19ページ)とスプリット(21ページ)を同時に使うことはできません。

鍵域を左右に分けて別々の2つのボイスで弾く(スプリット)

鍵盤全体を左右の領域に分け、別々のボイスを選んで演奏する機能をスプリットといいます。たとえば、左手の領域で「WOOD BASS」や「E.BASS」などのボイスでベースパートを、右手の領域でメロディーパートを演奏したりすることができます。



NOTE [MASTER]ボタンがオンの場合は、オフにします。マスター機能については、26ページをご参照ください。

1 [SPLIT]ボタンを押して、スプリットに入る

[SPLIT]ボタンのランプが点灯します。

この時点で、左側のボイスに初期設定の[WOOD BASS]が選ばれます。

スプリットでのオクターブやエフェクトの深さの設定をはじめとしたいいろいろな設定が「ファンクションF4」(36ページ)でできます。(特に設定していないなくても初期設定がボイスごとに自動的に選ばれます。)

NOTE スプリットのときは、右側のボイスボタンのランプが点灯します。

2 右側のボイスを決める

演奏したいボイスボタンを押します。

3 左側のボイスを決める

[SPLIT]ボタンを押したまま、演奏したいボイスボタンを押します。

[SPLIT]ボタンを押したまま、[VARIATION]ボタンまたは選んだボイスボタンを押すと、バリエーションのオン/オフが切り替わります。

NOTE [SPLIT]ボタンを押している間は左側のボイスボタンのランプが点灯します。

4 スプリットポイント(左右鍵域の境め)を決める

スプリットポイントの初期設定は「F#2」です。変える必要がない場合は、この操作は必要ありません。

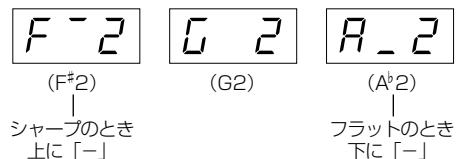


スプリットポイントの変更をする場合には

4-1 [SPLIT]ボタンを押したまま、スプリットポイントにしたい鍵盤を押す

[SPLIT]ボタンを押している間は画面にスプリットポイントの鍵盤名が表示されます。

スプリットポイントの鍵盤名の表示の例



4-2 [SPLIT]ボタンを離すと基本画面に戻る

5 [SPLIT]ボタンを押して、スプリットを抜ける

スプリットのときのバリエーション[VARIATION]

ボイスごとに[VARIATION]のオン/オフが設定できます。

スプリットのときは、パネルのボイスボタンは右側のボイスボタンのランプが点灯します。

[VARIATION]ボタンを押して、右側のボイスのバリエーションのオン/オフを切り替えることができます。[SPLIT]ボタンを押したまま、[VARIATION]ボタンを押すと、左側のボイスのバリエーションのオン/オフを切り替えることもできます。

バリエーションがオンのときは、[VARIATION]ボタンのランプが点灯します。

スプリットのときのリバーブ[REVERB]

右側のボイスのリバーブの種類が優先されます。右側のボイスのリバーブの種類がオフの場合は、左側のボイスのものになります。深さの調節(17ページ)は、左右のボイスに影響します。スプリットを抜けたとき変更した深さの値は、右側のボイスにだけ影響します。

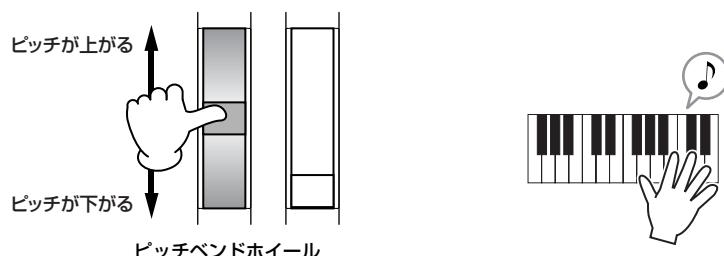
スプリットのときのエフェクト[EFFECT]

状況に応じて1つのエフェクトの種類が優先されます。

深さは、ボイスの組み合わせごとに初期設定を持っていますが、「ファンクションF4」(36ページ)でボイスごとに任意に設定することもできます。パネルでの深さの調節(18ページ)は、左右のボイスに影響します。スプリットを抜けたとき変更した深さの値は、右側のボイスにだけ影響します。

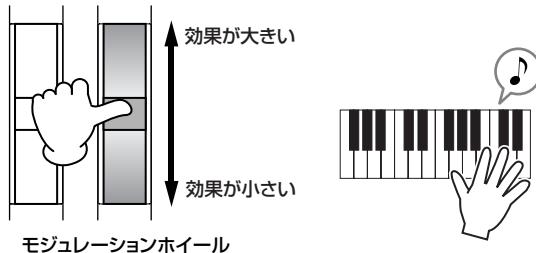
音のピッチを変える(ピッチベンドホイール)

鍵盤演奏で鳴っている音のピッチを、上げたり下げたりするために使います。奥へ回すとピッチが上がり、手前へ回すとピッチが下がります。ピッチベンドから手を離すと、自動的にまん中の位置に戻り、本来のピッチに戻ります。鍵盤演奏をしながら、ピッチベンドを上下に動かしてみましょう。



音にビブラートをかける(モジュレーションホイール)

モジュレーションホイールは、鍵盤演奏の音にビブラート(変調効果)をかけるために使います。ホイールを一番手前まで回すと効果が最小になり、奥に回すと効果が大きくなります。鍵盤演奏をしながら、モジュレーションホイールを上下に動かしてみましょう。



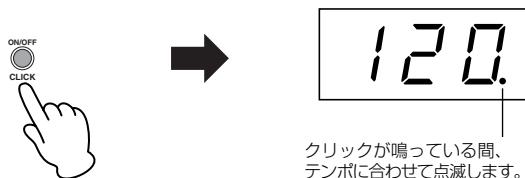
NOTE ギター、ベース以外のボイスには、ビブラート(変調効果)がかかりません。CP33では、モジュレーションホイールをマスター機能がオンの場合に、外部MIDI機器をコントロールするために使います。

NOTE 演奏音に意図しない効果がかからないよう、モジュレーションホイールを使わないときは、一番手前に戻しておきましょう。

クリック機能を使う(クリック)

CP33は、正確なテンポを刻むクリック機能を備えています。「CLICK」ボタンを押すと、クリック音のオン/オフを切り替えることができます。

1 [CLICK]ボタンを押して、クリック音を鳴らす



テンポの調節

[TEMPO/FUNCTION]ボタンのTEMPOのランプが点灯している状態で、TEMPO/FUNCTION [-] [+]-ボタンを押すとテンポの値が変わります。

- テンポの値: 32~280 (1分間の拍数)
- 初期設定: 120

NOTE [TEMPO/FUNCTION]ボタンのFUNCTIONのランプが点灯している場合は、[TEMPO/FUNCTION]ボタンを押して、TEMPOのランプを点灯させてください。

拍子の設定

[CLICK]ボタンを押している間は画面に拍子が表示されます。

[CLICK]ボタンを押したまま[NO/-]または[YES/+]ボタンを押すと、拍子(0~4)が変わります。

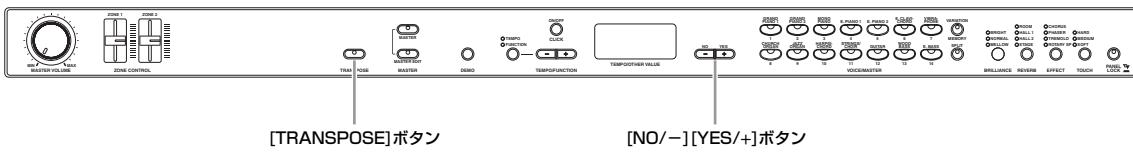
2 [CLICK]ボタンを押して、クリック音を止める

NOTE クリックの音量は、「ファンクションF6」(38ページ)で設定できます。

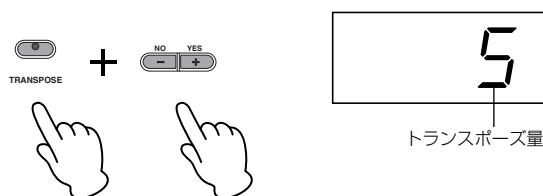
キー(調)を変える(トランスポーズ)

弾く鍵盤を変えずに、ほかの楽器や歌う人の声の高さにキー(調)を合わせたり、演奏する曲を移調したりすることができます。[TRANSPOSE]ボタンを押すことにより、半音単位でトランスポーズ量を設定できます。

たとえばトランスポーズ量を「+5」に設定すると、「ド」の鍵盤を弾いたときに「ファ」の音が出ることになり、「ハ長調」の弾きかたで「ヘ長調」の演奏になります。



[TRANSPOSE]ボタンを押している間は画面にトランスポーズ量の半音単位の値が表示されます。[TRANSPOSE]ボタンを押したまま[NO/-]または[YES/+]を押すと、-12 (-1オクターブ)から12 (+1オクターブ)まで半音単位で変わります。



用語: TRANSPOSE (トランスポーズ)=移調する
移調=曲全体の音の高さを上げたり下げたりしてキー(調)を変えること。

□トランスポーズ量:

- 12 -12半音(-1オクターブ)
- 0 標準の音の高さ
- 12 12半音(+1オクターブ)

[TRANSPOSE]ボタンのランプは、[TRANSPOSE]ボタンを押している間点灯します。

トランスポーズ量を0(ゼロ)以外に設定したときも、引き続き点灯し続けます。

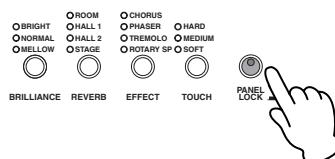
0以外に設定したあとは、[TRANSPOSE]ボタンを押すごとに、トランスポーズのオン/オフを切り替えることができます。

パネルロック機能

パネルロック機能を使えば、パネル操作を一時的に無効にし、演奏中の誤操作によるトラブルを防ぐことができます。

1 [PANEL LOCK]ボタンをしばらく2回押す

[PANEL LOCK]ボタンが点灯します。パネルロック中は、パネル操作ができません。



2 もう一度[PANEL LOCK]ボタンをしばらく2回押すと、パネルロックが解除される

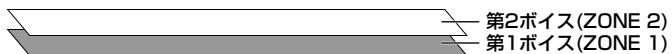
NOTE パネルロック機能は、[MASTER VOLUME]ダイアル、[ZONE CONTROL]スライダー、モジュレーションホールド、ピッチベンドホールド、ペダルには有効ではありません。

鍵域ごとにボリュームを変える(ゾーンコントロール)

演奏しながらZONE CONTROLスライダーを動かすことで、第1ボイス/第2ボイスの音量を調節します。上方向に動かすと値がプラスされ、下方向に動かすと値がマイナスされます。

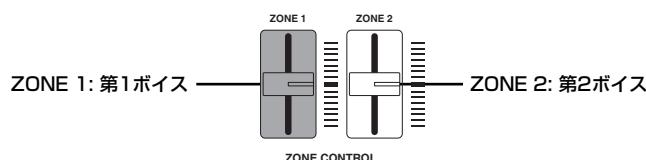
デュアルの場合：

VOICE/MASTER [1]~[14]ボタンの番号が若いボイスを第1ボイス、もう一方を第2ボイスと呼びます。



スプリットの場合：

右側のボイスを第1ボイス、左側のボイスを第2ボイスと呼びます。



デュアル、スプリットの場合

ZONE CONTROL [ZONE 1]スライダー：第1ボイスの音量を調節する

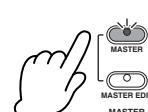
ZONE CONTROL [ZONE 2]スライダー：第2ボイスの音量を調節する

デュアル、スプリットでない場合

ZONE CONTROL [ZONE 1]スライダー：選ばれているボイスの音量を調節する

ZONE CONTROL [ZONE 2]スライダー：音量は変更されない

[MASTER]ボタンを押すと、各スライダーの機能が切り替わります。詳しくは、「マスター機能を使う」(26ページ)をご参照ください。



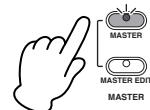
マスター機能を使う

マスター機能を使うことで、鍵盤を最大2つの領域(ゾーン)に分け、それぞれの領域(ゾーン)に異なるMIDIチャンネルを割り当てたり、コントロールスライダーの機能を変えたりできます。これにより、外部音源を最大2台までコントロールしたり、内部音源と外部音源の鳴らし分けができます。

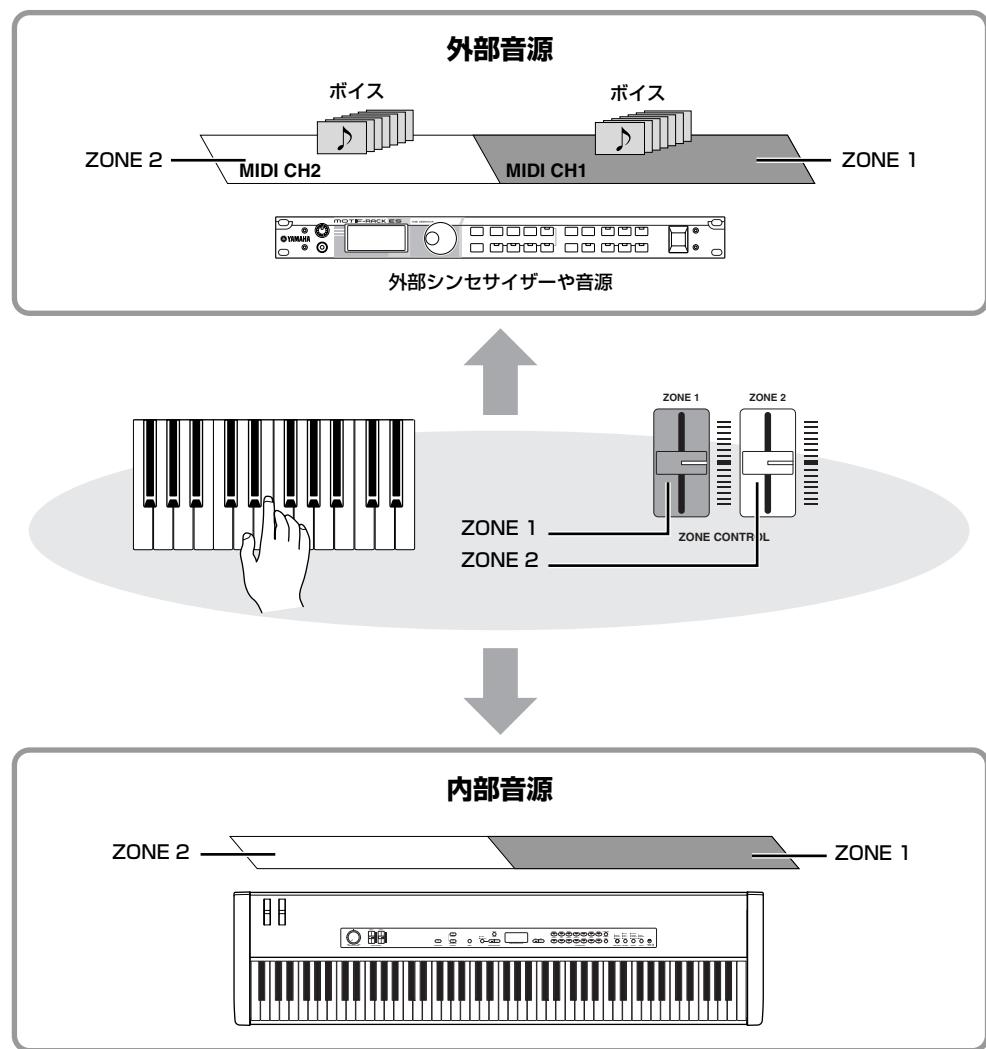
[MASTER]ボタンを押して、マスター機能をオンにします。

マスター機能をオンにすることで、マスターに関する設定「MASTER EDIT」が有効になります。詳しくは、27ページをご参照ください。

ここでは、設定できる実例としていくつかご紹介します。



例: 外部音源と接続した場合



NOTE マスター機能がオンの場合には、MIDIチャンネルの割り当ては、マスターに関する設定[MASTER EDIT]の「*.03 MIDI送信チャンネルの設定」(28ページ)が有効になります。

NOTE マスター機能がオンのまま電源を切ってふたたび電源を入れると、マスター機能はオフになります。

マスターに関する設定

[MASTER]ボタンをオンにしたときに、有効になる2つの領域(ゾーン)の設定ができます。
まず、「マスター エディット一覧」を見てください。

マスター エディット一覧

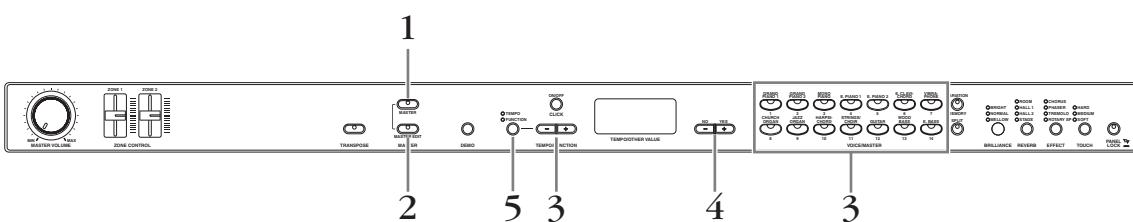
ZONE 1または2ごとに下記の設定ができます。

表示	項目	ページ
*.01	鍵域(最低音)の設定	28ページ
*.02	鍵域(最高音)の設定	28ページ
*.03	MIDI送信チャンネルの設定	28ページ
*.04	内部音源のオン/オフの設定	28ページ
*.05	スライダーの設定	29ページ
*.06	内部音源の音量設定	29ページ
*.07	外部音源の音量設定	29ページ
*.08	内部音源の左右の音の位置の設定	29ページ
*.09	外部音源の左右の音の位置の設定	29ページ
*.10	内部音源のリバーブの深さの設定	29ページ
*.11	内部音源のエフェクトの深さの設定	29ページ
*.12	オクターブの設定	30ページ
*.13	内部音源のボイスの設定	30ページ
*.14	外部音源へのプログラムチェンジ送信の設定	30ページ
*.15	外部音源へのパンクセレクトMSB送信の設定	30ページ
*.16	外部音源へのパンクセレクトLSB送信の設定	30ページ

「*」は、Zone 1または2を表わします。表示が1のときはZone 1、表示が2のときはZone 2を表わします。

マスター エディットでの基本操作

マスター エディットの各項目は、以下の手順で操作します。

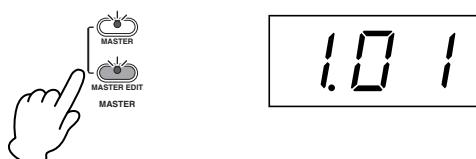


1 [MASTER] ボタンを押して、マスター機能をオンにする

[MASTER]ボタンのランプが点灯します。

2 [MASTER EDIT] ボタンを押して、マスター エディット設定に入る

[MASTER EDIT]ボタンのランプが点灯します。



3 TEMPO/FUNCTION [-][+]ボタンを押して、設定項目を選択する

設定項目に該当する番号のVOICE/MASTER[1]～[14]ボタンを押すと、直接設定項目に入ることができます。もう一度該当する番号のボタンを押すと、Zone1、2を切り替えることができます。

♪NOTE 「*.15、*.16」の設定項目には、VOICE/MASTER[1]～[14]ボタンを使って、直接入ることができません。

♪NOTE TEMPO/FUNCTION[-][+]ボタンを同時に押すと、1.01に戻ります。

4 [NO/-] [YES/+]ボタンを押して、値を設定する

♪NOTE [NO/-][YES/+]ボタンを同時に押すと、初期設定値に戻ります。

5 操作が完了したら、[MASTER EDIT]ボタンを押してマスターエディット設定から抜ける

画面がテンポ表示に戻ります。

各マスターエディット項目の説明

ここでの各項目の説明は、上記手順4に該当します。

*は、Zone 1または2を表わします。表示が1のときはZone 1、表示が2のときはZone 2を表わします。

*.01 鍵域(最低音)の設定

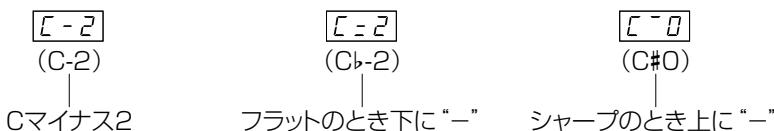
*.02 鍵域(最高音)の設定

各ゾーンの発音鍵域(最低音/最高音)を設定します。ここで設定した最低音と最高音の鍵盤範囲で音を鳴らします。

設定範囲: C-2～G8

初期設定: C-2(最低音)
G8(最高音)

鍵域(最高音/最低音)表示例



♪NOTE 鍵域(最低音/最高音)の設定画面で[SPLIT]ボタンを押しながら、Zone 1の最高音(1.02)にしたい鍵盤を押しても発音鍵域の設定ができます。

この場合、Zone 1の最低音(1.01)はC-2、Zone 2の最高音(2.02)はG8になります。Zone 1の最高音に設定した鍵盤の半音高い鍵盤がZone 2の最低音(2.01)になります。

*.03 MIDI送信チャンネルの設定

マスター機能がオンの場合に、各ゾーンの鍵盤のMIDIデータを送信するときのチャンネルを設定します。

設定範囲: 1(Ch1)～16(Ch16)、Off

初期設定: Zone 1:1(Ch1)
Zone 2:2(Ch2)

*.04 内部音源のオン/オフの設定

各ゾーンの内部音源のオン/オフを設定します。

設定範囲: On、Off

初期設定: On

♪NOTE MIDI機能の諸設定のF7.3ローカルコントロールがオフの場合は、内部音源をオンにしても音は鳴りません(38ページ)。

*.05 スライダーの設定

[ZONE CONTROL]スライダーに割り当てる機能を設定します。

設定範囲:

内部音源、外部音源に送信可能: C1(Modulation)、C2(Volume)、C3(Pan)、C4(Reverb Send)

外部音源のみ送信可能: 5C(Chorus Send)、C6(After Touch)、000~119(Control Change 0~119)

初期設定: C2(Volume)

表示例

 (Modulation)  (Volume)  (Control Change 0)

NOTE MIDI機能の諸設定のF7.5コントロールチェンジ送受信がオフの場合は、外部音源に送信できません(39ページ)。

*.06 内部音源の音量設定

*.07 外部音源の音量設定

各ゾーンの音量を設定できます。

設定範囲: 0~127

初期設定: 100

*.08 内部音源の左右の音の位置の設定

*.09 外部音源の左右の音の位置の設定

各ゾーンの音が左右のどのあたりから聞こえてくるかを設定します。

設定範囲: 0~127

初期設定: 64

表示例

 (L64 左寄り)  (C 中央)  (R63 右寄り)

*.10 内部音源のリバーブの深さの設定

各ゾーンの内部音源のリバーブの深さを設定します。

設定範囲: 0~20

初期設定: 10

NOTE リバーブの種類は、[REVERB]ボタンで設定できます(17ページ)。リバーブの種類の設定も保存されます。

*.11 内部音源のエフェクトの深さの設定

各ゾーンの内部音源のエフェクトの深さを設定します。

設定範囲: 0~20

初期設定: 10

NOTE エフェクトの種類は、[EFFECT]ボタンで設定できます(18ページ)。エフェクトの種類の設定も保存されます。

*.12 オクターブの設定

各ゾーンの鍵盤の音の高さをオクターブ単位で上下にシフトします。上下に3オクターブずつシフトできます。

設定範囲: -3~3
 初期設定: 0

表示例

		
(3オクターブ下)	(シフトしない)	(3オクターブ上)

*.13 内部音源のボイスの設定

ボイスの設定をします。28ボイスの中から選ぶことができます。詳しくは、「ボイス一覧」(46ページ)をご参照ください。

設定範囲: 1~28
 初期設定: 1

NOTE ボイス番号9と23を選んだ場合、同じボイスでジャズオルガン音が鳴ります。

*.14 外部音源へのプログラムチェンジ送信の設定

プログラムチェンジ/バンクセレクトMSB/バンクセレクト LSBを指定することにより、ボイスを選択するMIDIメッセージを設定します。

設定範囲: 0~127
 初期設定: 0

NOTE MIDI機能の諸設定のF7.4プログラムチェンジ送受信がオフの場合は、プログラムチェンジのMIDIメッセージは、送信されません(38ページ)。

*.15 外部音源へのバンクセレクトMSB送信の設定

プログラムチェンジ/バンクセレクトMSB/バンクセレクト LSBを指定することにより、ボイスを選択するMIDIメッセージを設定します。

設定範囲: 0~127
 初期設定: 0

NOTE MIDI機能の諸設定のF7.5コントロールチェンジ送受信がオフの場合は、バンクセレクトMSB/バンクセレクトLSBのMIDIメッセージは、送信されません(38ページ)。

*.16 外部音源へのバンクセレクトLSB送信の設定

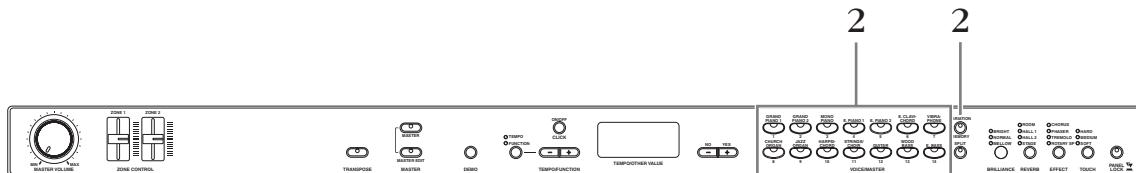
プログラムチェンジ/バンクセレクトMSB/バンクセレクト LSBを指定することにより、ボイスを選択するMIDIメッセージを設定します。

設定範囲: 0~127
 初期設定: 122

NOTE MIDI機能の諸設定のF7.5コントロールチェンジ送受信がオフの場合は、バンクセレクトMSB/バンクセレクトLSBのMIDIメッセージは、送信されません(38ページ)。

マスター機能の設定を保存する

自分でエディットしたマスター機能の設定を、VOICE/MASTER[1]～[14]ボタンに保存できます。保存した設定は簡単に呼び出すことができます。



1 保存したいマスター機能の設定をつくる

マスター機能に関する設定は、27ページをご参照ください。

2 [MEMORY]ボタンを押しながら、VOICE/MASTER[1]～[14]ボタンの中から保存したいボイスボタンを押す

 保存中は、画面に「--」が表示されます。保存中に電源を切らないでください。データが壊れるおそれがあります。

コンピューター上のシーケンサーなどを使って、ここで保存したマスター機能の設定をまとめて、コンピューターに保存することができます。

マスター機能を呼び出す

マスター機能をオンにして、呼び出したいボイスボタンを押すだけで、保存したマスター機能の設定をパネル上に呼び出せます。

各種の便利な設定

各種の便利な設定をする(ファンクション)

CP33では、音の高さを微調整したり、クリック音量を設定したり、いろいろ便利な設定ができます。それらをまとめて「ファンクション」と呼んでいます。

用語: ファンクション=機能

まず、「ファンクション一覧」を見てください。
ファンクションには、大項目が8個(F1～F8)あります。
大項目の中には、小項目をいくつか持つものもあります。

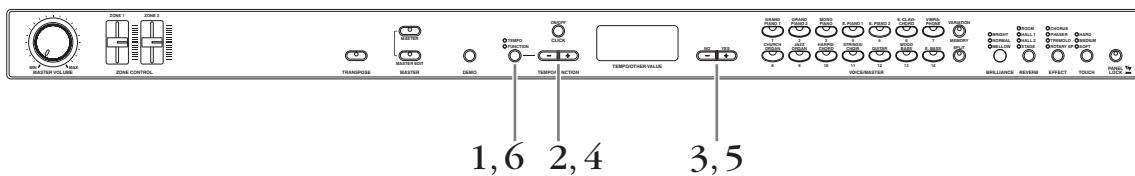
ファンクション一覧

大項目	小項目	ファンクション
音の高さの微調整(チューニング)	—	F1.
音律(調律法)の設定	音律(調律法)の種類の設定 基音の設定	F2.1 F2.2
デュアルの諸設定	2ボイスの音の高さを微妙にずらす設定 第1ボイスのオクターブシフトの設定 第2ボイスのオクターブシフトの設定 第1ボイスのエフェクトの深さの設定 第2ボイスのエフェクトの深さの設定 初期設定に戻す操作	F3.1 F3.2 F3.3 F3.4 F3.5 F3.6
スプリットの諸設定	スプリットポイントの設定 右側ボイスのオクターブシフトの設定 左側ボイスのオクターブシフトの設定 右側ボイスのエフェクトの深さの設定 左側ボイスのエフェクトの深さの設定 サステインペダルの有効域の設定 初期設定に戻す操作	F4.1 F4.2 F4.3 F4.4 F4.5 F4.6 F4.7
その他の諸設定	AUXペダル機能の設定 ソフトペダル効果の深さの設定 共鳴効果の深さの設定 キーオフ音の音量設定 サステインペダルの極性切り替え AUXペダルの極性切り替え	F5.1 F5.2 F5.3 F5.4 F5.5 F5.6
クリック音量の設定	—	F6
MIDI機能の諸設定	MIDI送信チャンネルの設定 MIDI受信チャンネルの設定 ローカルコントロールオン/オフの設定 プログラムチェンジ送受信オン/オフの設定 コントロールチェンジ送受信オン/オフの設定 イニシャルセットアップ送信	F7.1 F7.2 F7.3 F7.4 F7.5 F7.6
バックアップオン/オフの設定	ボイス関連項目のバックアップ設定 MIDI関連項目のバックアップ設定 音の高さ、音律関連項目のバックアップ設定 その他の項目のバックアップ設定	F8.1 F8.2 F8.3 F8.4

ファンクションでの基本操作

ファンクションの各項目は以下の手順で操作します。

ファンクションの各項目の説明で、操作がわからなくなったら場合はここに戻ってご参照ください。

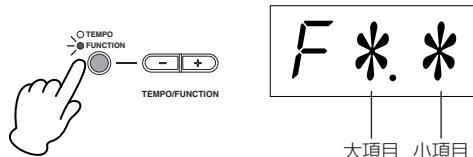


1 テンポ ファンクション [TEMPO/FUNCTION] ボタンを押して、ファンクションに入る

FUNCTIONのランプが点灯し、ファンクション画面が表示されます。

ファンクションの設定をしていない場合は、ファンクション画面に「**F l**」が表示されます。

すでにファンクションの設定をした場合は、最後に設定したファンクションの番号が表示されます。



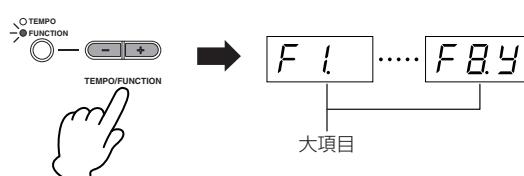
NOTE 手順2~5で、ファンクションの操作を中止したいときは、[FUNCTION]ボタンを押せばいつでもファンクションから抜けることができます。

2 大項目を選ぶ

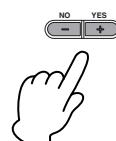
TEMPO/FUNCTION [-][+]ボタンでファンクションの大項目(F1~F8)を選びます。

大項目F1、F6は小項目がないので、手順5に進みます。

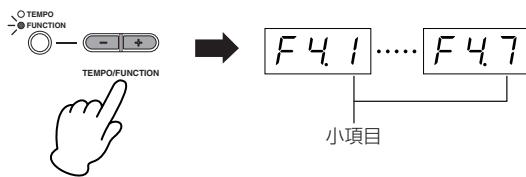
小項目がある場合、画面は「**F l y**」になります。「y」は小項目がある場合に表示します。



3 小項目がある場合は、[YES/+] ボタンを押す

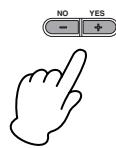


4 TEMPO/FUNCTION [-][+]ボタンでファンクションの小項目を選ぶ



5 [NO/-] [YES/+]ボタンで、オン/オフの設定、種類の設定、数値の設定をする

[NO/-] [YES/+]を同時に押すと初期設定(工場出荷時の状態)に戻ります。

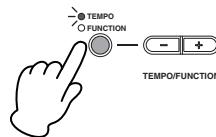


NOTE 項目を選んだあと、最初に[NO/-] [YES/+]ボタンを押したときは、現在の設定値が表示されます。

NOTE ファンクション設定を続ける場合は、TEMPO/FUNCTION[-][+]ボタンを押して、ファンクションの項目を選んでください。

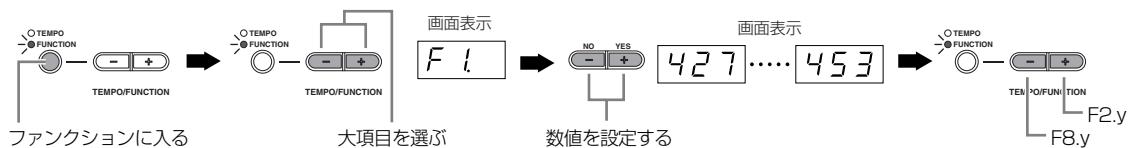
6 [TEMPO/FUNCTION]ボタンを押してファンクションから抜ける

TEMPOのランプが点灯し、画面がテンポ表示に戻ります。

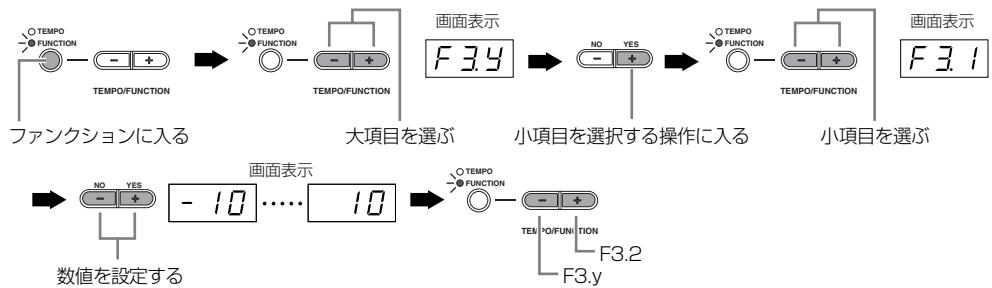


操作例

● F1. 「音の高さの微調整」(「大項目」→「値を設定」の場合)



● F3.1 「2ボイスの音の高さを微妙にずらす設定」(「大項目」→「小項目」→「値を設定」の場合)



各ファンクション項目の説明

ここでの各項目の説明は、34ページの手順5に該当します。

F1. 音の高さの微調整(チューニング)

楽器全体の音の高さを微調整する機能です。ほかの楽器やCDの再生音などと音の高さを正確に合わせたい場合に使います。

[NO/-] [YES/+]ボタンで、A3の鍵盤の音の高さをHzの数値で設定します(約0.2Hz単位)。

427 … 440 … 453

小数点以下の数値は、下記のような点「.」で示されます。

表示	値
440	440.0
4.40	440.2
44.0	440.4
440	440.6
4.40	440.8

用語: Hz(ヘルツ)とは
音の高さを示す単位です。(音の高さは音波の振動数によって決まります。1秒間に何回振動するかという数値の単位がHzです。)

鍵盤を使った設定方法

ファンクション画面を呼び出さなくとも、鍵盤を押さえることでチューニングができます。

音の高さを上げる(約0.2Hz単位)

A-1とB-1(左端の白鍵2つ)を同時に押したまま、C3～B3の1つの鍵盤を押す。

音の高さを下げる(約0.2Hz単位)

A-1とA#-1(左端の白鍵と黒鍵)を同時に押したまま、C3～B3の1つの鍵盤を押す。

初期設定に戻す

A-1とA#-1とB-1(左端の白鍵2つと黒鍵1つ)を同時に押したまま、C3～B3の1つの鍵盤を押す。

鍵盤名は、左端の白鍵がA-1、右端の白鍵がC7となっていきます。

上記操作中、画面がHz表示([427]…[453])に切り替わります。操作後、元の画面に戻ります。

約1Hz単位で音の高さを上下させる

「A-1とB-1」または「A-1とA#-1」(左端の白鍵2つ、または左端の白鍵と黒鍵)を同時に押したまま、[NO/-]または[YES/+]ボタンを押す。

初期設定に戻す

「A-1とB-1」または「A-1とA#-1」(左端の白鍵2つ、または左端の白鍵と黒鍵)を同時に押したまま、[NO/-] [YES/+]ボタンを同時に押す。

上記操作中、画面がHz表示([427]…[453])に切り替わります。操作後、元の画面に戻ります。

NOTE マスター機能がオンの場合は、鍵盤を使ってチューニングができません。

F2. 音律(調律法)の設定

音律(調律法)を選ぶ機能です。

現在もっとも一般的なピアノの調律法「平均律」が完成するまでには、時代と共にさまざまな音律が考えられ、またそれによる音楽が誕生しました。当時の調律法で演奏することでその曲が誕生した時の響きを味わうことができます。

7種類の音律(調律法)が用意されています。

F2.1 音律(調律法)の種類の設定

設定範囲: 1 平均律
2 純正律(長調)
3 純正律(短調)
4 ピタゴラス音律
5 中全音律
6 ヴェルクマイスター音律
7 キルンベルガー音律

初期設定: 1 平均律

平均律 (Equal Temperament)

1オクターブを12の間隔で等分した音律です。
現在もっともポピュラーなピアノの調律法です。

純正律(長調) (Pure Temperament) (Major)

純正律(短調) (Pure Temperament) (minor)

自然倍音を基準とするため、主要3和音が美しく純粋に響くのが特長です。現在でも合唱のハーモニーなどで見られます。

ピタゴラス音律 (Pythagorean Temperament)

ギリシャ時代の学者ピタゴラスによって考えられた5度音程だけの組み合わせからできた音律です。3度はうなりが生じますが5度と4度の音程が美しく、旋律の演奏に向いています。

中全音律 (Meantone Temperament)

ピタゴラス音律の3度の音程のうなりをなくすために改良された音律です。十六世紀後半から十八世紀後半までにかけて広く普及し、ヘンデルも使用しました。

各種の便利な設定

ヴェルクマイスター音律 (Werckmeister)

キルンベルガー音律 (Kirnberger)

中全音律とピタゴラス音律を組み合わせた音律で、両者はその組み合わせ方が異なります。転調により曲想が変化するのが特長です。バッハやベートーベン時代に使用され、現在でもその時代の音楽をハープシコード(=チェンバロ)などで演奏するときにはしばしば用いられます。

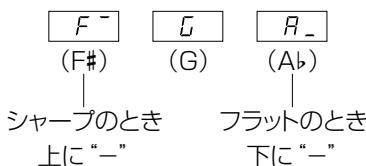
F2.2 基音の設定

平均律以外のときは、基音(演奏する曲の調の主音)を設定する必要があります。設定した基音の調に対して各音律の効果が得られます。(平均律を選んでいても基音の設定はできますが、平均律では意味を持ちません。他の音律を選んだときに意味を持つようになります。)

□設定範囲: C, C#, D, Eb, E, F, F#, G, Ab, A, Bb, B

□初期設定: C

• 基音表示の例



F3. デュアルの諸設定

デュアル(19ページ)での各種設定をします。

2ボイスの音の高さを微妙にずらしたりして、弾く曲に最適な設定を作ることができます。

ボイスの組み合わせごとに個別に設定されます。

ボイスがデュアルになっていない場合、画面が **F3-1** になり、[YES/+]ボタンを押しても反応しません。この場合は、2つのボイスボタンを同時に押して、ボイスをデュアルにします。

ショートカット操作

デュアルの2つのボイスボタンを押したまま[TEMPO/FUNCTION]ボタンを押すと直接ファンクションの **F3*** に入ることができます。

F3.1 2ボイスの音の高さを微妙にずらす設定

□設定範囲: -10~0~10 (+方向で第1ボイスの音の高さが高く、第2ボイスの音の高さが低くなる。
-方向で第2ボイスの音の高さが高く、第1ボイスの音の高さが低くなる。)

ずらすことができる音の幅は、低音域ほど大きく(A-1で±60セント)、高音域ほど小さく(C7で±5セント)なっています。(100セント=1半音です。)

□初期設定: ボイスの組み合わせごと

2ボイスの音の高さを微妙にずらすと音に厚みが出ます。

F3.2 第1ボイスのオクターブシフトの設定

F3.3 第2ボイスのオクターブシフトの設定

□設定範囲: -1, 0, 1

□初期設定: ボイスの組み合わせごと

音程を1オクターブ上下にシフトさせます。第1ボイスと第2ボイスを別々に設定できます。音の響き方が違つてきます。

F3.4 第1ボイスのエフェクトの深さの設定

F3.5 第2ボイスのエフェクトの深さの設定

□設定範囲: 0~20

□初期設定: ボイスの組み合わせごと

エフェクトの深さを第1ボイスと第2ボイスを別々に設定します。

エフェクトがオフのときは設定できません。(ファンクションに入ってからではエフェクトの種類を選ぶことができないので、ファンクションを一度抜けてからエフェクトの種類を選んでください。)

• 「第1ボイス」「第2ボイス」については、20ページをご参照ください。

F3.6 初期設定に戻す操作

[YES/+]ボタンを押すと **F3.1** から **F3.5** の設定が、そのボイスの組み合わせが持つ初期設定に戻ります。

F4. スプリットの諸設定

スプリット(21ページ)での各種設定をします。

スプリットポイントを変更したりして、弾く曲に最適な設定を作ることができます。

スプリットになっていない場合は、画面が **F4-1** になります、[YES/+]ボタンを押しても反応しません。ファンクションに入ってから、スプリットを選ぶことはできませんので、ファンクションを一度抜けてからスプリットを選んでください。

ショートカット操作

[SPLIT]ボタンを押したまま[TEMPO/FUNCTION]ボタンを押すと直接ファンクションの **F4*** に入ることができます。

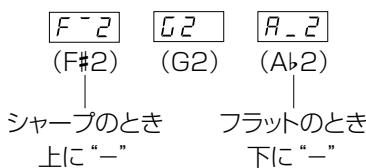
F4.1 スプリットポイントの設定

□設定範囲: 全鍵盤

□初期設定: F#2

左鍵域と右鍵域の境め(スプリットポイント)にする鍵盤を指定します。スプリットポイントの鍵盤自体は左鍵域に含まれます。

- [NO/-] [YES/+]ボタンの代わりに、スプリットポイントにしたい鍵盤を押しても設定できます。
- スプリットポイントの鍵盤名表示の例



[F42] 右側ボイスのオクターブシフトの設定

[F43] 左側ボイスのオクターブシフトの設定

□設定範囲: -1、0、1

□初期設定: ボイスの組み合わせごと

音の高さを1オクターブ上下にシフトさせます。右側ボイスと左側ボイス別々に設定できます。弾く曲の音域などに応じて選んでください。

ボイスの組み合わせごとに設定されます。

[F44] 右側ボイスのエフェクトの深さの設定

[F45] 左側ボイスのエフェクトの深さの設定

□設定範囲: 0~20

□初期設定: ボイスの組み合わせごと

エフェクトの深さを右側ボイスと左側ボイス別々に設定します。

エフェクトがオフのときは設定できません。(ファンクションに入ってからではエフェクトの種類を選ぶことができないので、ファンクションを一度抜けてからエフェクトの種類を選んでください。)

ボイスの組み合わせごとに設定されます。

[F46] サステインペダルの有効域の設定

□設定範囲: ALL(両ボイス)、1(右側のボイス)、2(左側のボイス)
□初期設定: ALL

サステインペダル効果を両ボイスにかけるか(ALL)、右側ボイスにだけかけるか(1)、左側ボイスにだけかけるか(2)を設定します。

[F47] 初期設定に戻す操作

[YES/+]ボタンを押すと [F41] から [F46] の設定がそのボイスの組み合わせが持つ初期設定に戻ります。

F5. その他の諸設定

AUXペダルの機能を切り替えたり、サステインペダルの共鳴効果の深さを設定します。

[F5.1] AUXペダル機能の設定

□設定範囲:

1 (エクスプレッションペダル)

演奏中に音の強弱を付けることができます。

2 (ソフトペダル)

ペダルを踏んでいる間、ペダルを踏んだあとに弾いた音の音量をわずかに下げ、音の響きを柔らかくすることができます。(ペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音には効果はかかりませんので、効果をかけたい音を弾く直前に踏みます。)

3 (ソステナートペダル)

ペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけを、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。ペダルを踏んだあとに弾いた音には効果はかかりません。

オルガンやストリングス、クワイアのボイスでは…

ソステナートペダルを踏むと、音が減衰せず、踏んでいる間鳴り続けます。

□初期設定: 1(エクスプレッションペダル)

[F5.2] ソフトペダル効果の深さの設定

□設定範囲: 1~5

□初期設定: 3

ソフトペダル効果の深さを設定します。

[F5.3] 共鳴効果の深さの設定

□設定範囲: 0~20

□初期設定: 12

[GRAND PIANO 1](VARIATIONを含む)、[MONO PIANO](VARIATIONを含まない)のボイスでサステインペダルを踏んだときに加わる響板や弦の共鳴効果の深さを設定します。

[F5.4] キーオフ音の音量設定

□設定範囲: 0~20

□初期設定: 10

各種の便利な設定

[GRAND PIANO 1][MONO PIANO]

[HARPSICHORD][E.CLAVIDOR]のボイスで、キーオフ音(鍵盤を離したときの微妙な発音)の音量を設定します。

F5.5 サステインペダルの極性切り替え

□設定範囲: 1、2
□初期設定: 1

[SUSTAIN PEDAL]端子や[AUX PEDAL]端子に接続したペダルによって、踏んだときの効果(オン/オフや強弱など)が逆になる場合があります。そのような場合に切り替えてください。

ペダルの抜き差しは、電源を切った状態で行なってください。

サステインペダルの極性を2にして、電源が入ったままペダルを抜くと、そのあともサステイン効果がかかったままの状態になります。その場合は一度電源を切り、入れ直してください。

F6. クリック音量の設定

クリックの音量を設定します。
クリックの音量を大きくしたいときや、小さくしたいときに使います。

□設定範囲: 1~20
□初期設定: 10

ショートカット操作

[CLICK]ボタンを押したまま[TEMPO/FUNCTION]ボタンを押すと直接ファンクションの **F5** に入ることができます。

F7. MIDI機能の諸設定

MIDIに関する各種設定/操作をします。
MIDIについての簡単な紹介が「MIDIについて」(41ページ)にあります。ご参照ください。

F7.1 MIDI送信チャンネルの設定

MIDI楽器どうして、演奏情報を送受信するためには送信側と受信側でMIDIチャンネル(1~16チャンネル)を合わせておく必要があります。ここでCP33からMIDIデータを送信するときのチャンネルを設定します。

□選択範囲: 1~16、オフ(送信しない)
□初期設定: 1

デュアルのときの第2ボイス、スプリットのときの左側ボイスはここで設定したチャンネルの次のチャンネルで送信されます。(第1ボイス、右側ボイスは、ここで設定したチャンネルで送信されます。)ただし、上記設定チャンネルをオフに設定した場合は送信されません。

NOTE マスター機能がオンの場合は、マスターに関する設定[MASTER EDIT]の「*03 MIDI送信チャンネルの設定」が有効になります。

F7.2 MIDI受信チャンネルの設定

MIDI楽器どうして、演奏情報を送受信するためには送信側と受信側でMIDIチャンネル(1~16チャンネル)を合わせておく必要があります。ここでCP33がMIDIデータを受信するときのチャンネルを設定します。

□選択範囲: ALL、1&2、1~16
□初期設定: ALL

ALLの場合は

「マルチティンバー」と呼ばれる仕様になっており、外部MIDI機器から送信される複数のチャンネルのデータを、同時にチャンネルごとに独立して受信します。

この状態で、シーケンサーなどから送信される複数のチャンネルを使って作られた演奏データを、CP33で受信して再生させることができます。

「1&2」の場合は

シーケンサーなどの外部MIDI機器から1、2チャンネルのデータだけ受信し、CP33本体で再生することができます。

CP33では、CP33本体のパネル設定や手弾き音は、送信されてくるプログラムチェンジ(ボイス切り替え)などのチャンネルメッセージから影響を受けません。

F7.3 ローカルコントロールオン/オフの設定

通常、CP33の鍵盤を弾くと本体内部の「音源部」から音が出ます。この状態は「ローカルコントロールオン」と呼ばれます。「ローカルコントロールをオフ」になると、「鍵盤」と「音源」が切り離され、鍵盤を弾いてもCP33からは音が出なくなります。一方、鍵盤を弾いた演奏データはMIDI送信されますので、CP33では音を鳴らさずにMIDI接続した外部の音源を鳴らしたいときなどに、ローカルコントロールをオフにします。

□選択範囲: オン/オフ
□初期設定: オン

F7.4 プログラムチェンジ送受信オン/オフの設定

MIDIで送信側の機器から受信側の機器のボイスを切り替える情報をプログラムチェンジと言います。たとえばCP33からプログラムチェンジを送信するとMIDI接続した外部機器のボイスを切り替えることができます。(CP33のパネル上でボイスを切り替えたときに、切り替えたボイスのプログラムチェンジナンバーが送信されます。)逆にMIDI接続した外部機器から送信されたプログラムチェンジをCP33が受信すると、同時に受信しているMIDIの演奏データのボイスが切り替わります。(このとき鍵盤での手弾きボイスは切り替わりません。)

このプログラムチェンジの送/受信ができたほうが便利な場合(MIDI接続した外部機器とボイス切り替えを連動させたい場合)と、できないほうが便利な場合(MIDI接続した外部機器とボイス切り替えを連動させたくない場合)があります。ボイス切り替えを連動させたい場合はオンに、連動させたくない場合は、オフにします。

NOTE 各ボイスのプログラムチェンジナンバーについては「MIDIデータフォーマット」(50ページ)をご参照ください。

□選択範囲: オン/オフ

□初期設定: オン

F 75 コントロールチェンジ送受信オン/オフの設定

MIDIで送信側の機器から受信側の機器にサステインペダルの操作やボリュームなどの演奏表現を伝える情報をコントロールチェンジと言います。

たとえばCP33からコントロールチェンジを送信するとMIDI接続した外部機器の演奏をコントロールすることができます。(CP33でサステインペダルを操作をしたときなどにコントロールチェンジが送信されます。)逆にMIDI接続した外部機器から送信されたコントロールチェンジをCP33が受信すると、同時に受信しているMIDIの演奏データがそれに反応します。(このとき鍵盤での手弾き音は影響を受けません)。

このコントロールチェンジの送/受信ができたほうが便利な場合と、できないほうが便利な場合があります。送/受信ができたほうが便利な場合はオンに、できないほうが便利な場合は、オフにします。

NOTE CP33がコントロールチェンジとして扱える情報については「MIDIデータフォーマット」(50ページ)をご参照ください。

□選択範囲: オン/オフ

□初期設定: オン

F 76 イニシャルセットアップ送信

MIDI接続したシーケンサーなどにセットアップデータ(楽器のパネル設定状態のデータ)を送信します。演奏データを録音する前にイニシャルセットアップ送信をすると、演奏データの頭にセットアップデータを記録しておくことができます。また、音源モジュールにセットアップデータを送信すれば、音源モジュールを楽器と同様の設定にすることができます。

1. 送信するパネル設定を作ります。
 2. シーケンサーなどとMIDI接続し、シーケンサー側のセットアップデータ受信準備を整えます。
 3. ファンクションに入って **F 76** を選びます。
 4. [YES/+]ボタンを押すと送信が実行されます。
- 送信が終わると、**End** が表示されます。

以下のデータをイニシャルセットアップ送信できます。

- ボイス
- [REVERB]の種類
- [REVERB]の深さ

- [EFFECT]の種類
- [EFFECT]の深さ
- スプリットポイント
- チューニング(音の高さの微調整)値(F1)
- 2ボイスの音の高さを微妙にずらす設定の値(F3.1)

F8. バックアップオン/オフの設定

バックアップとは、ご自分で設定したボイス選択や、リバーブのタイプなどの設定内容を、電源を切っても消さずに残しておくことを言います。

バックアップをオンにしておくと、次回電源を入れたときにも前回の設定が有効になります。バックアップをオフにしておくと、電源をオフにした時点でメモリーの内容は消され、次回電源を入れたときには初期設定(=工場出荷時の状態)に戻ります。初期設定一覧が47ページに掲載されています。

ただし、ここでの「バックアップオン/オフの設定」自体は、電源を切っても消えません。

以下の項目ごとにバックアップのオン/オフを設定します。各項目のバックアップグループは、楽器の各ファンクション(ボイス関連、MIDI関連、音律関連、その他の項目)に分かれています。

F8.1 ボイス関連項目のバックアップ設定

□設定範囲: オン/オフ

□初期設定: オフ

□設定内容:

- ボイス選択(デュアル、スプリットを含む)
- デュアルの諸設定(**F 3*** の設定内容)(ボイスの組み合わせごと)
- スプリットの諸設定(**F 4*** の設定内容)(ボイスの組み合わせごと)
- リバーブのオン/オフ、種類と深さ(ボイスごと)
- エフェクトのオン/オフ、種類と深さ(ボイスごと)
- タッチの設定(FIXED時の音量も含む)
- クリックの拍子と音量(音量は、**F 5** の設定内容)

F8.2 MIDI関連項目のバックアップ設定

□設定範囲: オン/オフ

□初期設定: オン

□設定内容:

- MIDI機能の諸設定(**F 7*** の設定内容)(**F 76** を除く)

F8.3 音の高さ、音律関連項目のバックアップ設定

□設定範囲: オン/オフ

□初期設定: オン

□設定内容:

- トランスポーズの設定
- 音の高さの微調整(**F 1** の設定)
- 音律(調律法)の種類と基音の設定(**F 2*** の設定内容)

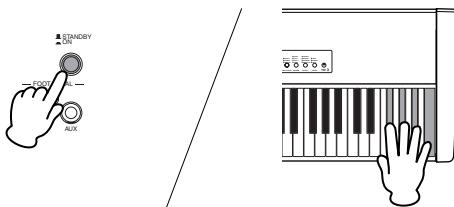
F84 その他の項目のバックアップ設定

- 設定範囲: オン/オフ
- 初期設定: オン
- 設定内容:
 - その他の諸設定(**F5*** の設定)

初期設定(工場出荷時の状態)に戻すには

いったん電源をオフにし、右端の鍵盤(C7)と黒鍵(F#6、G#6、A#6)を押したまま電源をオンにします。

この操作で、F1からF8のすべての項目が初期設定(=工場出荷時の状態)に戻ります。初期設定一覧が47ページに掲載されています。



（×） 楽器の画面に「[Err]」が表示されます。この表示が出ている間は、電源を切らないでください。「[Err]」が表示されているときに電源を切ると、楽器本体が故障するおそれがあります。

コンピューターやMIDI機器と接続する

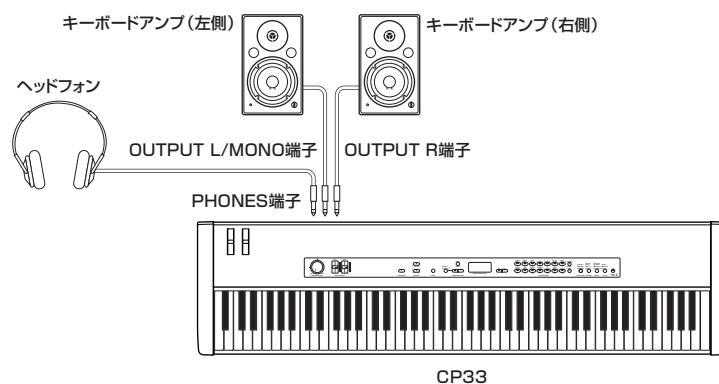
外部オーディオ機器との接続

CP33にはスピーカーが内蔵されていません。音を出すためには、外部ステレオシステムやアンプ、スピーカーなどとの接続が必要となります。ヘッドフォンをお使いになれば直接音を聞くこともできます。ここでは、一般的な接続の方法をいくつかご紹介します。次のイラストを参照して外部のオーディオシステムと接続しましょう。

2台のキーボードアンプを使う場合(アナログ出力)

キーボードアンプを2台使用すると、各ボイスのパンやエフェクトなどの設定が再現され、拡がりのある豊かなサウンドが得られます。

この場合リアパネルのOUTPUT [L/MONO]端子とOUTPUT [R]端子を使用します。



NOTE キーボードアンプを1台だけ使う場合は、リアパネルのOUTPUT [L/MONO]端子だけを使用します。

NOTE OUTPUT [L/MONO]端子に接続しピアノボイスを使用する場合は、[MONO PIANO]のボイスを使用することをお勧めします。

NOTE OUTPUT [L/MONO]、[R]端子からのサウンドは、ヘッドフォンの抜き差しに関係なく出力されます。なお、楽器本体の[MASTER VOLUME]ダイアルで外部オーディオ機器、ヘッドフォンから出る音量を調節できます。

NOTE ヘッドフォンでは、OUTPUT [L/MONO]、[R]端子の出力と同じ信号をモニターできます。

外部MIDI機器との接続

市販のMIDIケーブルを使って、CP33のMIDI IN/OUT端子と外部MIDI機器のMIDI端子を接続します。CP33から外部MIDI機器をコントロールしたり、外部MIDIキーボードやシーケンサーでCP33の音源を鳴らすことができます。

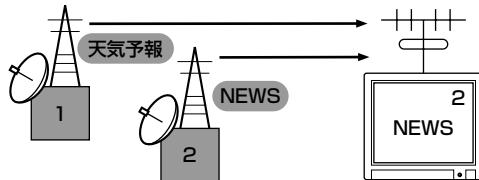
MIDIについて

MIDI(Musical Instrument Digital Interface)とは、MIDI端子を備えたMIDI機器間や、MIDI機器とコンピューター間で演奏データや命令を送受信しあうための、各種送受信データ様式についての統一規格です。MIDI機器間(MIDI機器とコンピューター間)でMIDIデータを送受信することにより、電子ピアノから外部のMIDI機器の演奏をコントロールしたり、外部のMIDI機器やコンピューターから電子ピアノをコントロールしたりすることができます。

MIDIチャンネル

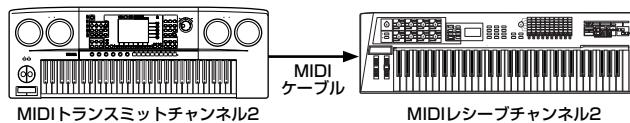
MIDIの情報には、MIDIチャンネルという1～16の番号が割り当てられています。このMIDIチャンネルを使って、1本のMIDIケーブルで同時に16パート分の情報を送る仕組みになっています。

MIDIチャンネルは、テレビのチャンネルと同じようなものだと考えることができます。テレビの放送局は、あらかじめ割り当てられたチャンネルで情報を送信します。各家庭では複数の放送局から送られてきた情報を同時に受信した上で、特定のチャンネルを選択することで目的の放送局の情報(番組)をみることができます。



MIDIチャンネルもこれと同じ仕組みです。MIDIデータは、送信側の楽器で設定されたMIDI送信チャンネル(MIDIトランスマットチャンネル)によってMIDIケーブルを通り受信側の楽器に送られます。このとき、受信側の楽器で設定されるMIDI受信チャンネル(MIDIレシーブチャンネル)が、送信側のチャンネルと一致してはじめて音が鳴ります。

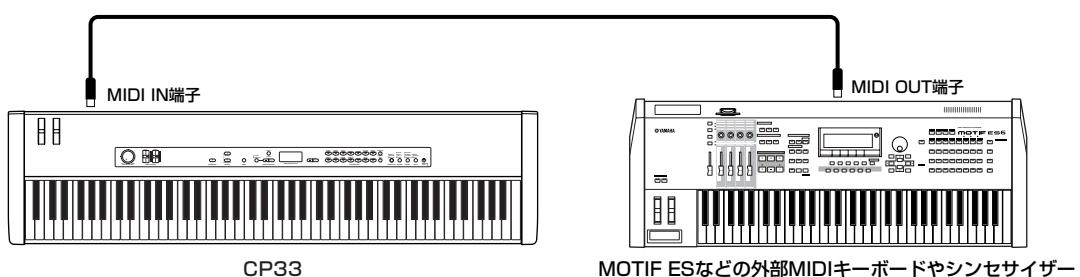
MIDI送信チャンネルと受信チャンネルの具体的な設定方法は、38ページをご参照ください。



ここでは、用途別にいくつかの例をご紹介します。

外部MIDIキーボードやシンセサイザーでCP33をコントロールする場合

本体の鍵盤ではなく外部MIDIキーボードの鍵盤演奏で、本体のボイスを鳴らしたりボイス変更などをコントロールできます。



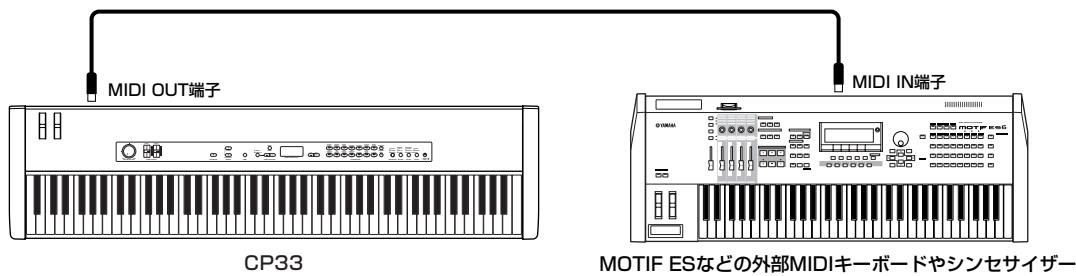
MIDI送信チャンネルと受信チャンネル

この接続で本体の音を鳴らすために、外部MIDIキーボードのMIDI送信チャンネルとCP33本体のMIDI受信チャンネルを合わせる必要があります。外部MIDIキーボードのMIDI送信チャンネルについては、外部MIDIキーボードの取扱説明書でご確認ください。

CP33本体のMIDI受信チャンネルについては、電源を入れたあとで各種の便利な機能を設定する[FUNCTION]の「F7. MIDI機能の諸設定」を確認し、必要に応じて外部キーボードの送信チャンネルと同じチャンネルに変更してください。

CP33で外部MIDIキーボードやシンセサイザーをコントロールする場合

本体の鍵盤演奏で、ほかのMIDI音源(シンセサイザー、音源モジュールなど)の音を鳴らすことができます。本体のボイスだけでなく、ほかの音源のボイスも同時に鳴らしたい場合の使いかたです。



NOTE MIDI機器の中でも、機種ごとに送受信できるMIDIデータの内容が同じではないため、接続しているMIDI機器間で共通に扱えるデータや命令だけが送受信できることになります。共通に扱えるデータや命令は、53、54ページの「MIDIインプリメンテーションチャート」を照合して調べることができます。

本体音源と外部音源の鳴らし分け

この接続により、本体の音と外部音源の音との鳴らし分けができます。このとき、本体のMIDI送信チャンネルと外部MIDI音源の受信チャンネルを合わせる必要があります。電源を入れたあとで各種の便利な機能を設定する[FUNCTION]の「F7. MIDI機能の諸設定」で設定をしてください。[MASTER]ボタンがオンの場合は、マスターに関する設定[MASTER EDIT]の「*.03 MIDI送信チャンネル」で設定をしてください。

コンピューターとの接続

本体とコンピューターを接続することで、MIDIデータの送受信ができます。コンピューター上でシーケンサーを再生させて本体音源を鳴らしたり、CP33からコンピューターへMIDIデータを送信したりできます。

USBケーブルを使ってコンピューターと接続するためには、コンピューターにUSB-MIDIドライバーをインストールしてください。以下のURLからUSB-MIDIドライバーをダウンロードしてください。

http://www.yamaha.co.jp/download/usb_midi/

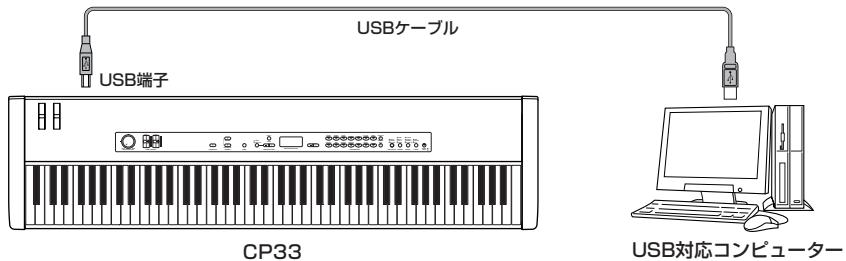
対応OS: Windows XP Professional/Home Edition/2000/Me/98、Mac OS X 10.2~10.4.0

*上記の対応OSは、バージョン2.1.6(Windows)、バージョン1.0.4(Mac OSX)に対するものです。

上記URLに最新情報が掲載されています。

USBケーブルを使って接続する場合

USBケーブルを使って、コンピューター上のシーケンサーとCP33との間でMIDIデータを送受信できます。CP33では、USBケーブルでオーディオデータを送受信することはできません。



USB端子とコンピューターを接続すると、MIDI端子は使用できなくなります。

USB端子ご使用時の注意

USB端子でコンピューターと接続するときは、以下のことを行なってください。

以下のことを行なわないでください。コンピューターと本体が停止(ハングアップ)して、データが壊れたり、失われたりするおそれがあります。

コンピューターと本体が停止したときは、電源を入れ直し、コンピューターを再起動してください。



- USB端子でコンピューターと接続する前に、コンピューターの省電力(サスPEND/スリープ/スタンバイ/休止)モードを解除してください。
- 本体の電源を入れる前に、USB端子とコンピューターを接続してください。
- 本体の電源オン/オフやUSBケーブルの抜き差しをする前に、以下のことを行なってください。
 - すべてのアプリケーションを終了させてください。
 - 本体からデータが送信されていないか確認してください。(鍵盤を演奏したりソングを再生させたりしても、本体からデータが送信されます。)
- 本体の電源オン/オフやUSBケーブルの抜き差しは、6秒以上間隔を空けて行なってください。

資料編

困ったときは

現象	考えられる原因	解決法
CP33の電源が入らない。	電源アダプターが差し込まれていません(本体側と家庭用コンセント側)。	電源アダプターを本体と家庭用(AC100V)コンセントに、確実に差し込んでください(9ページ)。
[STANDBY/ON]スイッチを押して電源を入れたとき、または切ったとき、「カチッ」と音がする。	電気が流れたためです。	異常ではありません。
CP33から雑音が出る。	CP33の近くで携帯電話を使っています(または呼び出し音が鳴っています)。	CP33の近くでは、携帯電話の電源を切ってください。CP33の近くで携帯電話を使ったり、呼び出し音が鳴ったりすると、雑音が出る場合があります。
全体的に音が小さい。 まったく音が出ない。	CP33と、外部オーディオ機器が正しく接続されていません。	接続を確認してください。(9ページ)
	[MASTER VOLUME]ダイアルまたは[ZONE CONTROL]スライダーが下がっています。	[MASTER VOLUME]ダイアルまたは[ZONE CONTROL]スライダーを上げてください(11ページ、25ページ)。
	マスター機能オンで[ZONE CONTROL]スライダーにVOLUMEを設定している場合、[ZONE CONTROL]スライダーが下がっています。	[ZONE CONTROL]スライダーを上げてください。
	ローカルコントロールがオフになっています。	ローカルコントロールをオンにしてください(10ページ)。
サステインペダルが効かない。	ペダルコードのプラグが[SUSTAIN PEDAL]端子に差し込まれていません。	ペダルコードのプラグを[SUSTAIN PEDAL]端子に確実に差し込んでください(11ページ)。
[SUSTAIN PEDAL]や[AUX PEDAL]に接続したペダルによって、踏んだときの効果(オン/オフや強弱など)が逆になる。	ペダルの極性が反転しています。	ファンクションF5.5、F5.6で極性の切り替えをしてください。(38ページ)
特定の音域でピアノボイスの音の高さ、音質がおかしい。	ピアノボイスでは、ピアノ本来の音をできる限り忠実に再現しようとしております。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音の高さや音域が異質に感じる場合があります。	異常ではありません。
鍵盤を弾くと、機構音がカタカタ鳴る。	CP33の鍵盤機構は、ピアノの鍵盤機構をシミュレートして設計されています。ピアノの場合でも機構音は実際に出ているものです。	異常ではありません。

ボイス一覧

パネル	ボイス番号*1	ボイス名	ステレオサンプリング	タッチによる音の強弱	ダイナミックサンプリング*2	キーオフサンプリング*3	説明
GRAND PIANO 1 (グランドピアノ1)	1	Grand Piano 1	○	○	○	○	フルコンサートグランドピアノからサンプリングしました。3段階のダイナミックサンプリング、サステインペダル使用時の音色変化、鍵盤を離したときの微妙な発音まで、アコースティックピアノに極限まで近づけたぜいたくな音作りです。あらゆるジャンルのピアノ曲に合います。
	15	Mellow Piano	○	○	○	○	暖かみのあるメローなピアノの音です。
GRAND PIANO 2 (グランドピアノ2)	2	Grand Piano 2	○	○	—	—	明るい響きを持った広がりのあるクリアなピアノの音です。ポピュラー音楽に最適です。
	16	Bright Piano	○	○	—	—	広がりのある明るいピアノの音です。ポピュラー、ロックなどの音楽に最適です。
MONO PIANO (モノピアノ)	3	Mono Piano 1	—	○	○	—	アンサンブルで際立つモノラルのピアノの音です。
	17	Mono Piano 2	—	○	—	—	アンサンブルで際立つ異なるタイプのモノラルのピアノの音です。
E.PIANO 1 (エレクトリックピアノ1)	4	E.Piano 1	—	○	○	—	金属片をハンマーでたたいて発音させる電気ピアノの音です。弱く弾いたときは柔らかく、強く弾くと芯のある音がします。
	18	Vintage Piano	—	○	○	—	異なるタイプの電気ピアノの音です。ロック、ポピュラー音楽によく使われています。
E.PIANO 2 (エレクトリックピアノ2)	5	E.Piano 2	—	○	○	—	FMシンセサイザーによる電子ピアノの音です。タッチの強弱に応じて音色の変化も楽しめます。ポピュラー音楽に最適です。
	19	Synth Piano	—	○	—	—	ポピュラー音楽でよく耳にするシンセサイザーによる電子ピアノの音です。ピアノとのデュアルでも楽しめます。
E.CLAVICHORD (エレクトリッククラビコード)	6	E.Clavichord	—	○	—	○	電磁ピックアップの付いた鍵盤式打弦楽器です。ファンキーなサウンドはブラックコンテンポラリー音楽などでおなじみです。その構造から、鍵盤を離したときには独特の発音があります。
	20	Wah Clavi.	—	○	—	○	個性的なエフェクトをプリセットしています。
VIBRAPHONE (ビブラフォン)	7	Vibraphone	○	○	○	—	比較的柔らかなマレットでたたいたビブラフォンの音です。強く弾くほど金属的な音になります。
	21	Marimba	○	○	—	—	ステレオサンプリングによる広がり感と臨場感あるマリンバの音です。
CHURCH ORGAN (チャーチオルガン)	8	Church Organ	○	—	—	—	パイプオルガンのプリンシバル系(金管楽器系)の混合音栓の音(8フィート+4フィート+2フィート)です。バロック時代の教会音楽の演奏に適しています。
	22	Pipe Organ Tutti	○	—	—	—	バッハの「トッカータとフーガ」で有名なパイプオルガンのフルカッラーの音です。
JAZZ ORGAN (ジャズオルガン)	9	Jazz Organ	—	—	—	—	歯車回転式電気オルガンの音です。ジャズ、ロックなどの音楽(ジャズオルガン)で良く用いられます。
	23	Jazz Organ (Variation)	—	—	—	—	エフェクトである回転スピーカー効果のスピードが異なり、バリエーションの方が速い効果の音です。また、押鍵中にバリエーション切り替えすると徐々にスピードが変化するしくみになっています。
HARPSICHORD (ハーピシコード)	10	Harpsichord	○	—	—	○	バロック音楽でよく使われる楽器の音です。タッチによって音量は変わらず、鍵盤を離したときには独特の発音があります。
	24	Harpsichord (Variation)	○	—	—	○	オクターブ上の音がミックスされたハーピシコードの音です。より華やかさが感じられます。

パネル	ボイス番号*1	ボイス名	ステレオサンプリング	タッチによる音の強弱	ダイナミックサンプリング*2	キーオフサンプリング*3	説明
STRINGS/CHOIR (ストリングス/ クワイア)	11	Strings	○	○	—	—	ステレオサンプリングでリアルな響きがする大編成弦楽アンサンブルの音です。ピアノとのデュアルでも楽しめます。
	25	Choir	—	○	—	—	空間に広がる心和む合唱の音です。スローナ曲で和音の広がりが得られます。
GUITAR (ギター)	12	Nylon Guitar	—	○	—	—	暖かみのあるナチュラルなナイロンギターの音です。静かな曲で雰囲気を楽しんでください。
	26	Steel Guitar	—	○	—	—	明るく華やかな感じのするスチールギターの音です。ポピュラー音楽に最適です。
WOOD BASS (ウッドベース)	13	Wood Bass	—	○	—	—	アップライトベースを指で弾く奏法の音です。ジャズやラテン音楽などによく用いられます。
	27	Bass&Cymbal	—	○	—	—	シンバルの音を重ねてあります。ジャズのウォーキングベースに用いると効果的です。
E.BASS (エレクトリック ベース)	14	E.Bass	—	○	—	—	エレクトリックベースの音です。ジャズ、ロック、ポピュラーなどの音楽によく用いられます。
	28	Fretless Bass	—	○	—	—	フレッドレスベースの音です。ジャズ、フュージョンなどの音楽に向いています。

1: マスターに関する設定の[MASTER EDIT]の「.13 内部音源のボイスの設定」をする場合は、該当するボイス番号を入れてください(30ページ)。

*2: ダイナミックサンプリングとは
鍵盤を弾く強さに応じて複数の波形をサンプリングしたものです。より生楽器らしいダイナミックな表現を実現します。

*3: キーオフサンプリングとは
鍵盤を離したときの微妙な発音をサンプリングしたものです。

- ボイス番号15~28は、該当するボイスを選択し、[VARIATION]ボタンを押すと選ぶことができます。

初期設定一覧

初期設定(=工場出荷時の状態)は以下のとおりです。

項目	初期設定	バックアップグループ
ボイス選択	GRAND PIANO 1(グランドピアノ1)	F8.1
バリエーションの種類	オフ	
デュアル機能	オフ	
スプリット機能	オフ	
スプリット左側ボイス	WOOD BASS(ウッドベース)	
ブリリアンスの種類	NORMAL(ノーマル)	—
リバーブの種類	ボイスごと	F8.1
リバーブの深さ	ボイスごと	
エフェクトの種類	ボイスごと	
エフェクトの深さ	ボイスごと	
タッチの種類	MEDIUM(ミディアム)	
タッチがFIXED(フィックスト)のときの音量	64	—
パネルロック	オフ	—
クリック	オフ	—
クリックの拍子	0(無拍子)	F8.1
テンポ	120	—
トランスポーズ	0	F8.3

・「-」の項目はバックアップはありません。

・バックアップグループについては、39ページをご参照ください。

ファンクションの初期設定一覧

表示	項目	初期設定	バックアップ グループ
F1.	音の高さ	A3=440Hz	F8.3
F2.1	音律	1(平均律)	
F2.2	基音	C	F8.1
F3.1	2ボイスの音の高さ	ボイスの組み合わせごと	
F3.2	第1ボイスのオクターブシフト	ボイスの組み合わせごと	
F3.3	第2ボイスのオクターブシフト	ボイスの組み合わせごと	
F3.4	第1ボイスのエフェクトの深さ	ボイスの組み合わせごと	
F3.5	第2ボイスのエフェクトの深さ	ボイスの組み合わせごと	
F4.1	スプリットポイント	F#2	
F4.2	右側ボイスのオクターブシフト	ボイスの組み合わせごと	
F4.3	左側ボイスのオクターブシフト	ボイスの組み合わせごと	
F4.4	右側ボイスのエフェクトの深さ	ボイスの組み合わせごと	
F4.5	左側ボイスのエフェクトの深さ	ボイスの組み合わせごと	
F4.6	サステインペダルの有効域	ALL(オール)	F8.4
F5.1	AUXペダル機能	1(エクスプレッションペダル)	
F5.2	ソフトペダル効果の深さ	3	
F5.3	共鳴効果の深さ	12	
F5.4	キーオフ音の音量	10	
F5.5	サステインペダルの極性切り替え	1	
F5.6	AUXペダルの極性切り替え	1	F8.1
F6	クリック音量	10	
F7.1	MIDI送信チャンネル	1	F8.2
F7.2	MIDI受信チャンネル	ALL(オール)	
F7.3	ローカルコントロールオン/オフ	オン	
F7.4	プログラムチェンジ送受信オン/オフ	オン	
F7.5	コントロールチェンジ送受信オン/オフ	オン	
F8.	バックアップの設定	ボイス関連項目の設定のみオフ、その他の設定はオン	●

・「●」の項目は、常にバックアップされています。

マスター機能の初期設定一覧

表示	項目	初期設定
*.01	鍵域(最低音)	C-2
*.02	鍵域(最高音)	G8
*.03	MIDI送信チャンネル	Zone1=Ch1 Zone2=Ch2
*.04	内部音源のオン/オフ	On
*.05	スライダー	Volume
*.06	内部音源の音量	100
*.07	外部音源の音量	100
*.08	内部音源の左右の音の位置の設定	64
*.09	外部音源の左右の音の位置の設定	64
*.10	内部音源のリバーブの深さ	10
*.11	内部音源のエフェクトの深さ	10
*.12	オクターブ	0
*.13	内部音源のボイス	1
*.14	外部音源へのプログラムチェンジ送信	0
*.15	外部音源へのバンクセレクトMSB送信	0
*.16	外部音源へのバンクセレクトLSB送信	122

- ・「*」は、Zone 1または2を表わします。
- ・マスターに関する設定は、マスター機能がオンのときのみ有効です。

メッセージ一覧

表示	表示内容
[LLr]*	楽器を初期設定(工場出荷時の状態)に戻しています。
[End]	処理が終わりました。
[FEL]*	処理中に電源を切ったので、楽器本体のメモリーが初期化されました。
[n Y]	操作を実行しますか？

! 楽器の画面に「[LLr]」「[FEL]」が表示されているときは、絶対に電源を切らないでください。「[LLr]」「[FEL]」が表示されているときに電源を切ると、楽器本体が故障するおそれがあります。

MIDIデータフォーマット

1. ノートオン/オフ

[9nH]→[kkH]→[vvH]
 9nH = ノートオン/オフ・イベント(n=チャンネルNo.)
 kkH = ノートNo.
 (送信: 09H~78H=A-2~C8)
 (受信: 00H~7FH=C-2~G8)
 vvH = ベロシティ
 (ノートオン=01H~7FH, ノートオフ=00H)

[8nH]→[kkH]→[vvH](受信のみ)
 8nH = ノートオフ(n=チャンネルNo.)
 kkH = ノートNo.(00H~7FH=C-2~G8)
 vvH = ベロシティ

2. コントロールチェンジ

[BnH]→[ccH]→[vvH]
 BnH = コントロール・チェンジ(n=チャンネルNo.)
 ccH = コントロールNo.
 vvH = コントロール値

1) バンク選択

ccH パラメーター 値(vvH)
 00H バンク選択MSB 00H: ノーマル
 20H バンク選択LSB 00H~7FH

※ プログラムエンジを受信するまで、バンク選択の処理は保留されます。

2) モジュレーションホイール

ccH パラメーター 値(vvH)
 01H モジュレーション 00H~7FH

3) メインボリューム

ccH パラメーター 値(vvH)
 07H ボリューム 00H~7FH

4) パン

ccH パラメーター 値(vvH)
 0AH パン 00H~7FH

5) エクスプレッション

ccH パラメーター 値(vvH)
 0BH エクスプレッション 00H~7FH

6) サステインペダル

ccH パラメーター 値(vvH)
 40H サステイン 00H~7FH

7) ソステナートペダル

ccH パラメーター 値(vvH)
 42H ソステナート 00H~3FH: オフ、
 40H~7FH: オン

8) ソフトペダル

ccH パラメーター 値(vvH)
 43H ソフトペダル 00H~3FH: オフ、
 40H~7FH: オン

9) エフェクト1デプス(リバーブ・センドレベル)

ccH パラメーター 値(vvH)
 5BH エフェクト1デプス 00H~7FH

※ リバーブ・エフェクトに対するセンドレベルを設定します。

10) エフェクト4デプス(バリエーション・エフェクト・センドレベル)

ccH パラメーター 値(vvH)
 5EH エフェクト4デプス 00H~7FH

11) RPN

65H RPN MSB
 64H RPN LSB
 06H データエントリー MSB
 26H データエントリー LSB
 60H データ Increment
 61H データ Decrement

※ RPNでコントロールできるもの

- ・コースチューン
- ・ファインチューン
- ・ピッチペンドレンジ

3. モード・メッセージ

[BnH]→[ccH]→[vvH]
 BnH = コントロール・イベント(n=チャンネルNo.)
 ccH = モード・メッセージNo.
 vvH = モード・メッセージ値

1) オール・サウンド・オフ

ccH コントローラー 値(vvH)
 78H オール・サウンド・オフ 00H

2) リセット・オール・コントローラー

ccH コントローラー 値(vvH)
 79H リセット・オール・コントローラー 00H

※ 以下のようにリセットされます。

コントローラー	設定値
エクスプレッション	127(最大)
サステインペダル	0(オフ)
ソステナート	0(オフ)
ソフトペダル	0(オフ)

3) ローカルコントロール(受信のみ)

ccH コントローラー 値(vvH)
 7AH ローカルコントロール 00H(オフ)、7FH(オン)

4) オール・ノート・オフ

ccH コントローラー 値(vvH)
 7BH オール・ノート・オフ 00H

※ 該当チャンネルのオンしているノートをすべてオフにします。ただし、サステインもしくはソステナートがオンの場合は、それらがオフになるまで発音は終了しません。

5) オムニ・オフ(受信のみ)

ccH コントローラー 値(vvH)
 7CH オムニ・オフ 00H

※ オール・ノート・オフを受信したときと同じ動作を行ないます。

6) オムニ・オン(受信のみ)

ccH コントローラー 値(vvH)
 7DH オムニ・オン 00H

※ オール・ノート・オフを受信したときと同じ動作を行ないます。

7) モノ(受信のみ)

ccH コントローラー 値(vvH)
 7EH モノ 00H

※ オール・サウンド・オフを受信したときと同じ動作を行ないます。

8) ポリ(受信のみ)

ccH コントローラー 値(vvH)
 7FH ポリ 00H

※ オール・サウンド・オフを受信したときと同じ動作を行ないます。

◆補足

1. コントロールエンジオフがオフされているときは、コントロールエンジは送受信されません。
2. ローカル・オン/オフ、オムニ・オン/オフは送信しません。(オール・ノート・オフは、送信時モノート・オフ数を合わせます。)
3. ボイス・バンク(MSB, LSB)受信時は、順番に関係なく受け付けた番号を内部バッファに保存し、プログラムエンジを受信した時点のバッファ値を用いて実際のボイスを決めます。
4. 本機は常にポリ・モードであり、モノ/ポリ・モードを受信しても、モードは変わりません。

4. プログラムエンジ

[CnH]→[ppH]
 CnH = プログラムエンジ(n=チャンネルNo.)
 ppH = プログラムエンジNo.

※ プログラムエンジオフがオフされているときは、プログラムエンジは送受信されません。

各ボイスのプログラムエンジナンバーについては、
 <付表1>をご参照ください。

5. ピッチャペンドエンジ

[EnH]→[ccH]→[ddH]
 ccH = LSB
 ddH = MSB

6. チャンネルアフタータッチ

[DnH]→[vvH]

7. システム・リアルタイム・メッセージ

1) アクティブ・センシング

[FEH]

※ 200msecごとに送信します。

※ 一度FEHを受信した後、約400msec以上MIDIからの信号がこない場合は、オール・サウンド・オフ、オール・ノート・オフ、リセット・オール・コントローラーを受信したときと同じ処理をします。

2) クロック

[F8H]

※ 96分タイミングで送信します。

※ MIDI受信時にエラーが起こったときは、全チャンネルのサステイン、ソステナート、ソフト効果をオフし、オール・ノート・オフします。

<付表1>

各ボイスのプログラムエンジナンバー

P.C.#=Program Change number

Voice Name	MSB	LSB	P.C.#
GRAND PIANO 1	0	122	1
VARIATION	0	123	1
GRAND PIANO 2	0	112	1
VARIATION	0	112	2
MONO PIANO	0	123	2
VARIATION	0	114	2
E.PIANO 1	0	122	5
VARIATION	0	123	5
E.PIANO 2	0	122	6
VARIATION	0	122	89
E.CLAVICHORD	0	122	8
VARIATION	0	123	8
VIBRAPHONE	0	122	12
VARIATION	0	122	13
CHURCH ORGAN	0	123	20
VARIATION	0	122	20

Voice Name	MSB	LSB	P.C.#
JAZZ ORGAN	0	122	17
VARIATION	0	123	17
HARPSICHORD	0	122	7
VARIATION	0	123	7
STRINGS/CHOIR	0	122	49
VARIATION	0	122	53
GUITAR	0	122	25
VARIATION	0	122	26
WOOD BASS	0	122	33
VARIATION	0	124	33
E.BASS	0	122	34
VARIATION	0	122	36

プログラムエンジを0~127で設定する場合は、上記リストのP.C.#から1を引いた数で指定します。たとえば、P.C.#1のプログラムを指定する場合は、プログラムエンジ=0になります。

8. システムエクスクルーシブメッセージ (ヤマハMIDIフォーマット)

[FOH]→[43H]→[OnH]→[7CH]→…→[F7H]
 FOH,43H,OnH,7CH : n=チャンネルNo.
 00H,LLH : データ長
 43H,4CH,20H,20H : CL
 43H,4CH,50H,27H,30H,35H : CLP05
 3xH,3yH : (バージョンx,y)
 [パネルデータ]
 [チェックサム(ハイ)]=0-(43H+4CH+20H+…+データエンド)
 F7H : エンドオブエクスクルーシブ

【パネルデータ詳細】

- (1) 音色選択
- (2) デュアル オン/オフ
- (3) デュアル音色
- (4) デュアル音量バランス
- (5) デュアル音程のずらし方
- (6) デュアル第1音色のオクターブシフト
- (7) デュアル第2音色のオクターブシフト
- (8) デュアル第1音色のエフェクトの深さ
- (9) デュアル第2音色のエフェクトの深さ
- (10) スプリット オン/オフ
- (11) スプリット音色
- (12) スプリットポイント
- (13) スプリット音量バランス
- (14) スプリット右側音色のオクターブシフト
- (15) スプリット左側音色のオクターブシフト
- (16) スプリット右側音色のエフェクトの深さ
- (17) スプリット左側音色のエフェクトの深さ
- (18) スプリットサステインペダルの有効域
- (19) リバーブタイプ1
- (20) リバーブタイプ2
- (21) リバーブデプス1
- (22) リバーブデプス2
- (23) エフェクトタイプ1
- (24) エフェクトタイプ2
- (25) エフェクトデプス
- (26) —
- (27) タッチの種類
- (28) タッチがFIXEDのときの音量
- (29) AUXペダル機能
- (30) ソフトペダルの効果の深さ
- (31) テンポ(絶対値 下位byte)
- (32) テンポ(絶対値 上位byte)
- (33) キーホフ音の音量設定
- (34) —
- (35) —
- (36) パリエーション

※ パネルデータ送信要求は受信しません。

9. システムエクスクルーシブメッセージ (ユニバーサルシステムエクスクルーシブ)

1) ユニバーサルリアルタイムメッセージ
 [FOH]→[7FH]→[XnH]→[04H]→[01H]→[rrH]→[mmH]→[ddH]→…→[F7H]
 FOH : MIDIマスターボリューム
 ※ 全チャンネルの音量が一度に変化します。
 ※ MIDIマスターボリュームを受信したときは、MIDI入力
 チャンネルのみに効果があり、パネルのボリュームは
 変化しません。

FOH : エクスクルーシブステータス
 7FH : ユニバーサルリアルタイム
 7FH : ターゲットデバイスのID
 04H : サブID #1(機種コントロールメッセージ)
 01H : サブID #2(マスターボリューム)
 rrH : ボリューム LSB
 mmH : ボリューム MSB
 F7H : エンドオブエクスクルーシブ

または

FOH : エクスクルーシブステータス
 7FH : ユニバーサルリアルタイム
 XnH : Xは無視、nは0~Fを受信
 04H : サブID #1(機種コントロールメッセージ)
 01H : サブID #2(マスターボリューム)
 rrH : ボリューム LSB
 mmH : ボリューム MSB
 F7H : エンドオブエクスクルーシブ

2) ユニバーサルノンリアルタイムメッセージ (GM ON)

[FOH]→[7EH]→[XnH]→[09H]→[01H]→[F7H]
 ジェネラルMIDIモードオン
 FOH : エクスクルーシブステータス
 7EH : ユニバーサルノンリアルタイム
 7FH : ターゲットデバイスのID
 09H : サブID #1(ジェネラルMIDIメッセージ)
 01H : サブID #2(ジェネラルMIDIオン)
 F7H : エンドオブエクスクルーシブ

または

FOH : エクスクルーシブステータス
 7EH : ユニバーサルノンリアルタイム
 XnH : Xは無視、nは0~Fを受信
 09H : サブID #1(ジェネラルMIDIメッセージ)
 01H : サブID #2(ジェネラルMIDIオン)
 F7H : エンドオブエクスクルーシブ

※ オンを受信することにより、MIDIがリセットされて初期状態になります。このメッセージの実行には、約50msかかるため、次のメッセージとの間隔を注意してください。

10. システムエクスクルーシブメッセージ (XG規格)

1) XGネイティブパラメーターチェンジ
 [FOH]→[43H]→[1nH]→[4CH]→[hhH]→[mmH]→[ddH]→…→[F7H]

FOH : エクスクルーシブステータス
 43H : ヤマハ
 1nH : n=CP33からの送信時は常に0、受信時は0~F
 4CH : XGモデルID
 hhH : アドレスHigh
 mmH : アドレスMid
 rrH : アドレスLow
 ddH : データ
 F7H : エンドオブエクスクルーシブ

※ データサイズはパラメーターのサイズに一致する必要があります。
 ※ XGシステムオンを受信することにより、MIDIがリセットされて初期状態になります。このメッセージの実行には、約50msかかるため、次のメッセージとの間隔を注意してください。

2) バルクダンプ(受信のみ)

[FOH]→[43H]→[OnH]→[4CH]→[aaH]→[bbH]
 →[hhH]→[mmH]→[rrH]→[ddH]→…→[ccH]→[F7H]

FOH : エクスクルーシブステータス
 43H : ヤマハ
 OnH : n=0~F
 4CH : XGモデルID
 aaH : バイトカウント
 bbH : バイトカウント
 hhH : アドレスHigh
 mmH : アドレスMid
 rrH : アドレスLow
 ddH : データ
 ccH : チェックサム
 F7H : エンドオブエクスクルーシブ

※ XGシステムオンを受信すると、必要なパラメーター、コントロールチェンジ等をリセットし、初期状態になります。このメッセージの実行には、約50msかかるため、次のメッセージとの間隔を注意してください。

※ XGネイティブパラメーターチェンジで、データサイズが2または4のパラメーターは、そのサイズ分のデータを送信します。
 ※ XGバルクダンプのアドレスおよびバイトカウントは、付表2の「MIDIパラメーターチェンジ表(システム)」を参照してください。付表中トータルサイズで区切られたデータシリーズが一つのバルクになり、そのシリーズの先頭アドレス(00H, 00H, 00H)のみバルクデータのアドレスとして有効です。

＜付表2＞ MIDIパラメーターチェンジ表(システム)

アドレス(H)	サイズ(H)	データ(H)	パラメーター	記述	初期値(H)	※
00 00 00	4	020C~05F4	マスター・チューン	-50~+50[セント]	00 04 00 00	020CH以下は-50セントになります。
01				1stビット3~0→ビット15~12	400	05F4H以上は+50セントになります。
02				2ndビット3~0→ビット11~8		
03				3rdビット3~0→ビット7~4		
04	1	00~7F	マスター・ボリューム	0~127	7F	
7E		0	XGシステムオン	00=XGシステムオン		
7F		0	オール・パラメーターリセット	00=オン(受信のみ)		
トータルサイズ		07				

MIDIデータフォーマット

<付表3>

MIDIパラメーターチェンジ表(エフェクト1)

※ リバーブ、コラス、バリエーションタイプのナンバーは、エフェクトMIDIマップを参照してください。

アドレス(H)	サイズ(H)	データ(H)	パラメーター	記述	初期値(H)
02 01 00	2	00~7F 00~7F	リバーブタイプMSB リバーブタイプLSB	エフェクトMIDIマップを参照 00:ベーシックタイプ	01(=ホール1) 00
02 01 40	2	00~7F 00~7F	バリエーションタイプ MSB バリエーションタイプ LSB	エフェクトMIDIマップ参照 00:ベーシックタイプ	00(=エフェクトなし) 00

注意：ここでいうバリエーションエフェクトとは、本機のパネルのエフェクトに相当します。

<付表4>

MIDIパラメーターチェンジ表(マルチパート)

アドレス(H)	サイズ(H)	データ(H)	パラメーター	記述	初期値(H)
08 nn 11	1	00~7F	ドライレベル	0~127	7F

<付表5>

エフェクトMIDIマップ(Reverb)

	MSB	LSB
ROOM	02H	10H
HALL1	01H	10H
HALL2	01H	11H
STAGE	03H	10H
OFF	00H	00H

<付表6>

エフェクトMIDIマップ(Effect)

	MSB	LSB
CHORUS	42H	10H
PHASER	48H	10H
TREMOLO	46H	10H
ROTARY SP	47H	10H
OFF	00H	00H

11.システムエクスクルーシブメッセージ
(エレクトロニックピアノMIDI準拠)

[FOH]→[43H]→[73H]→[01H]→[nnH]→[F7H]

FOH : エクスクルーシブステータス
43H : ヤマハ
73H : エレクトロニックピアノ
01H : 機種ID(CLIP共通)
nnH : サブステータス
コントロール nn
内部クロック 02H
外部クロック 03H
F7H : エンドオブエクスクルーシブ

12.システムエクスクルーシブメッセージ
(特殊操作子)

[FOH]→[43H]→[73H]→[xxH]→[11H]→[0nH]→[ccH]→[vvH]→[F7H]

FOH : エクスクルーシブステータス
43H : ヤマハ
73H : エレクトロニックピアノ
7FH : 拡張機種ID
xxH : 機種ID 4CH
11H : SK特殊操作子
0nH : コントロールMIDIチェンジ(n=特殊操作子チャンネルNo.)
cc : コントロールNo.
vv : 値
F7H : エンドオブエクスクルーシブ

コントロール オン ccH vvH
スプリットポイント 常に00H 14H スプリットキー No.
メトロノーム 常に00H 1BH 00H:ビートなし
01H~0FH:1/4~15/4
7FH:オフ

サステインレベル Ch:00~0FH 3DH(Chごとのピアノ
サステイン量を設定する)
00H~7FH

チャンネルデチューン Ch:00~0FH 43H(Chごとのデチューン
量を設定する)
00H~7FH

ボイスリザーブ Ch:00~0FH 45H 00H:リザーブオフ
7FH:オン*1

*1 リザーブオンの間に受信したボリューム、エクスプレッションは次のキーイン時から有効になります。
通常はリザーブオフです。

13.システムエクスクルーシブメッセージ
(マスター設定パルク)

パルクリクエスト(受信のみ)
[FOH]→[43H]→[2nH]→[7FH]→[05H]→[33H]→
[00H]→[00H]→[F7H]

FOH : エクスクルーシブステータス
43H : ヤマハ
2nH : n=CP33の受信時は常に0
7FH : CP33モデルID High
05H : CP33モデルID Low
33H : マスター設定アドレス High
00H : マスター設定アドレス Mid
00H : マスター設定アドレス Low
F7H : エンドオブエクスクルーシブ

パルクダンプ
[FOH]→[43H]→[0nH]→[7FH]→[05H]→[04H]→
[0EH]→[33H]→[00H]→[00H]→[dtH]→···→[ccH]→
→[F7H]

FOH : エクスクルーシブステータス
43H : ヤマハ
0nH : n=CP33への送受信時は常に0
7FH : CP33モデルID High
05H : CP33モデルID Low
04H : バイトカウント
0EH : バイトカウント
33H : マスター設定アドレス High
00H : マスター設定アドレス Mid
00H : マスター設定アドレス Low
dtH : データ
ccH : チェックサム
F7H : エンドオブエクスクルーシブ

14.システムエクスクルーシブメッセージ
(その他)[FOH]→[43H]→[1nH]→[27H]→[30H]→[00H]→
[00H]→[mmnH]→[rrH]→[ccH]→[F7H]

※ マスター チューニング(XGと後着優先)で、全チャンネルの音程を一度に変えられるメッセージです。

FOH : エクスクルーシブステータス
43H : ヤマハ
1nH : n=CLPからの送信時は常に0、受信時は0~F
27H : TG100の機種ID
30H : サブID
00H :
00H :
mmH : マスター チューニングMSB
rrH : マスター チューニングLSB
ccH : ccはなんでもよい。(7FH以下)
F7H : エンドオブエクスクルーシブ

YAMAHA [ステージピアノ]
MIDIインプリメンテーションチャート (ボイス)

Date : 01-Dec-2005
Version : 1.0

ファンクション		送信	受信	備考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1 1 - 16	1 - 16 1 - 16	Memorized ^{*1}
モード	電源ON時 メッセージ 代用	3 X *****	3 X X	
ノートナンバー	音域	0 - 127 *****	0 - 127 0 - 127	
ベロシティ	ノートオン ノートオフ	○ 9nH, v=1-127 X	○ 9nH, v=1-127 X	
アフタータッチ：	キー別 チャンネル別	X X	X X	
ピッチベンド		○	○ 0 - 24 semi	
コントロールチェンジ	0,32 1 7 10 11 6,38 64,66,67 84 91,94 96-97 100-101	○ ○ ○ X ○ ○ X ○ ○ X X	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	バンクセレクト モジュレーション メインボリューム パンポット エクスプレッション データエントリー ポルタメントコントロール エフェクトデプス RPN Inc,Dec RPN LSB,MSB
プログラムチェンジ：設定可能範囲		○ 0 - 127 *****	○ 0 - 127	
システムエクスクルーシブ		○	○	
コモン：	ソングポジション ソングセレクト チューン	X X X	X X X	
システム：	クロック	○	○	
リアルタイム：	コマンド	X	X	
Aux メッセージ	:オールサウンドオフ :リセットオールコントロール :ローカルオン/オフ :オールノートオフ :アクティブセンス :リセット	○ ○ X ○ ○ X	○ (120, 126, 127) ○ (121) ○ (122) ○ (123-125) ○ X	
備考： ^{*1} =記憶される				

モード1：オムニオン、ポリ モード2：オムニオン、モノ
モード3：オムニオフ、ポリ モード4：オムニオフ、モノ

○：あり
X：なし

YAMAHA [ステージピアノ]
MIDIインプリメンテーションチャート (マスター)

Date : 01-Dec-2005
Version : 1.0

ファンクション		送信	受信	備考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1 1 - 16	1 - 16 1 - 16	Memorized ^{*1}
モード	電源ON時 メッセージ 代用	3 X *****	3 X X	
ノートナンバー	音域	0 - 127 *****	0 - 127 0 - 127	
ベロシティ	ノートオン ノートオフ	○ 9nH, v=1-127 X	○ 9nH, v=1-127 X	
アフタータッチ：	キー別 チャンネル別	X ○ ^{*2}	X X	
ピッチベンド		○	○ 0 - 24 semi	
コントロールチェンジ	0,32 1 7 10 11 6,38 64,66,67 84 91,94 96-97 100-101	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	パンクセレクト ミュレーション メインボリューム パンポット エクスプレッション データエントリー ポルタメントコントロール エフェクトデプス RPN Inc,Dec RPN LSB,MSB
プログラムチェンジ：設定可能範囲		○ 0 - 127 *****	○ 0 - 127	
システムエクスクルーシブ		○	○	
コモン：	ソングポジション ソングセレクト チューン	X X X	X X X	
システム：	クロック	○	○	
リアルタイム：	コマンド	X	X	
Aux メッセージ	:オールサウンドオフ :リセットオールコントロール :ローカルオン/オフ :オールノートオフ :アクティブセンス :リセット	○ ○ X ○ ○ X	○ (120,126,127) ○ (121) ○ (122) ○ (123-125) ○ X	
備考： ^{*1} =記憶される ^{*2} =CP33の鍵盤はAfter Touchに対応していませんが、ゾーンコントロールスライダー1,2にAfter Touchが設定された場合、それぞれのスライダーを操作するとAfter Touchが送出されます。				

モード1：オムニオン、ポリ モード2：オムニオン、モノ
モード3：オムニオフ、ポリ モード4：オムニオフ、モノ

○：あり
X：なし

仕様

項目	内容
鍵盤	GH鍵盤 88鍵
音源	AWM ダイナミックステレオサンプリング
最大同時発音数	64
ボイス数	14×2バリエーション
効果	プリリアンス、リバーブ、エフェクト
コントロール	デュアル、スプリット、クリック、トランスポーズ、タッチ(ハード/ミディアム/ソフト/フィックスト)、各種ファンクション
ペダル	サステイン(ハーフペダル対応)、多機能割り当て
コントローラー	マスター・ボリューム・ダイアル、ピッチ・ベンド・ホイール、ミュレーション・ホイール、ゾーン・コントロール・スライダー
付属端子	MIDI IN/OUT、PHONES(ステレオ標準フォーンジャック)、OUTPUT L/MONO R(標準フォーンジャック)、FOOT PEDAL(SUSTAIN/AUX)、USB TO HOST、DC IN 12V
定格電源	電源アダプター PA-3C
消費電力	8.0 W
寸法(間口×奥行き×高さ) (ペダルユニットを除く)	1312mm × 330mm × 151mm
質量(ペダルユニットを除く)	18 kg
付属品	取扱説明書(本書)、フットペダルFC3、電源アダプター PA-3C、保証書

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

索引

A	
AUX PEDAL 端子	11
AUX ペダル	11
AUX ペダル機能の設定	37
B	
[BRILLIANCE] ボタン	17
C	
[CLICK] ボタン	23
D	
[DC IN 12V] 端子	9
[DEMO] ボタン	15
E	
[EFFECT] ボタン	18
F	
FUNCTION (ファンクション)	32
H	
Hz(ヘルツ)	35
M	
[MASTER EDIT] ボタン	27
[MASTER VOLUME] ダイアル	11
[MASTER] ボタン	26, 27
MIDI	41
MIDI [IN][OUT] 端子	42
MIDI インプリメンテーションチャート	
ボイス	53
マスター	54
MIDI 機能の諸設定	38
MIDI チャンネル	42
MIDI データフォーマット	50
N	
[NO/ -][YES/ +] ボタン	27, 33
O	
OUTPUT[L/MONO][R] 端子	41
P	
[PANEL LOCK] ボタン	24
[PHONES] 端子	9
R	
[REVERB] ボタン	17
S	
[SPLIT] ボタン	21
[STANDBY/ON] スイッチ	10
SUSTAIN PEDAL 端子	11
T	
TEMPO/FUNCTION [-][+] ボタン	28, 33
[TOUCH] ボタン	19
[TRANSPOSE] ボタン	24
U	
[USB] 端子	44
V	
[VARIARTION] ボタン	16
[VARIATION/MEMORY] ボタン	31
VOICE (ボイス)	16
[VOICE/MASTER] ボタン	16, 31
Z	
[ZONE CONTROL] スライダー	25
あ	
安全上のご注意	2
い	
移調	24
え	
エフェクト	18
お	
音律	35
音量の調節	
ゾーンコントロール	25
マスター・ボリューム	11
く	
クリック	23
クリック音量の設定	38
こ	
困ったときは	45
さ	
サステインペダル	11
し	
仕様	55
初期設定	40
初期設定一覧	47
ファンクション	48
マスター機能	49
す	
スプリット	21
スプリットの諸設定	36
スプリット・ポイント	21
せ	
接続	
外部 MIDI 機器	41
外部オーディオ機器	41
コンピューター	43
そ	
ゾーンコントロール	25
その他の諸設定	37
た	
タッチ	18
ち	
チューニング	35
て	
デモ曲	15
デュアル	19
デュアルの諸設定	36
テンポ	23
ト	
トランスポーズ	24
は	
バックアップ	39
パネルロック	24
バリエーション	16
ひ	
ピッチベンドホイール	22
拍子	23
ふ	
ファンクション一覧	32
付属品	6
ブリリアンス	17
へ	
ペダル	11
ペダルの極性切り替え	38
ヘッドフォン	9
ほ	
ボイス	16
ボイス一覧	46
ま	
マスター・エディット一覧	27
マスター機能	26
マスターに関する設定	27
マスター・ボリューム	11
め	
メッセージ一覧	49
も	
目次	7
目的別目次	8
モジュレーションホイール	23
り	
リバーブ	17

MEMO

ユーザーサポートサービスのご案内

■ ユーザー登録のお願い

弊社では、ユーザーの方々をサポートし、関連情報を提供するために、本製品をご購入いただいたお客様にユーザー登録をお願いしております。

ユーザー登録手続きは、下記ホームページよりお願いします。

ヤマハデジタル楽器・DTM 製品ホームページ
<http://www.yamahasynth.com/jp/>

ヤマハデジタル楽器・DTM製品ホームページ

<http://www.yamahasynth.com/jp/>

ヤマハマニュアルライブラリー

<http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/>

あなたの音楽生活をフルサポート

ミュージックイークラブ

<http://www.music-eclub.com/>

- * ユーザー登録には、製品本体のシリアル番号(SER No.)が必要になります。
- * ご登録いただいた「ご住所」、「お名前」、「メールアドレス」などを変更された場合は、上記ホームページよりお手続きください。

■ 質問の受付

ヤマハデジタル製品は、常に新技術/高機能を搭載し技術革新を進める一方、お使いになる方々の負担とわずらしさを軽減できるような製品づくりを進めております。また取扱説明書の記載内容も、よりわかりやすく使いやすいものにするため、研究/改善いたしております。

しかし、一部高機能デジタル製品では、取扱説明書だけでは説明しきれないほどのいろいろな知識や経験を必要としてしまうものがあります。

実際の操作に関して、基本項目は取扱説明書に解説いたしておりますが、「記載内容が理解できない」、「手順通りに動作しない」、「記載が見つからない」といったさまざまな問題が起こる場合があります。

そのようなお客様への一助となるよう、弊社ではシンセサイザー・デジタル楽器ご相談窓口を開設いたしております。

お気軽にご利用いただきますようご案内申し上げます。

お問い合わせの際には、「製品名」、「シリアル番号(SER No.)」をお知らせください。

お客様コミュニケーションセンター
シンセサイザー・デジタル楽器ご相談窓口

ナビダイヤル
(全国共通番号)



0570-015-808

市内通話料でOK
ナビダイヤル

※一般電話・公衆電話からは、市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは 053-460-1666

営業時間：月曜日～金曜日 10:00～18:00、

土曜日 10:00～17:00

(祝日およびセンター指定休日を除く)

メールでのお問い合わせ

<http://jp.yamaha.com/support/music-production/>

* 営業日や営業時間を変更させていただく場合がございます。

あらかじめご了承ください。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● 保証書

本機には保証書がついています。

保証書は販売店がお渡ししますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

● 保証期間

お買い上げ日から1年間です。

● 保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

下記の部品については、使用時間により劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要となります。消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

消耗部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点など

● 補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

● 修理のご依頼

まず本書の「困ったときは」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、または最寄りのヤマハ修理ご相談センターへ修理をお申し付けください。

● 製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

◆ 修理に関するお問い合わせ

ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル
(全国共通番号)



0570-012-808

※一般電話・公衆電話からは、市内通話料金をご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは TEL 053-460-4830

受付時間 月曜日～金曜日 9:00～18:00、

土曜日 9:00～17:00

(祝日およびセンター指定休日を除く)

FAX 053-463-1127

◆ 修理品お持込み窓口

受付時間 月曜日～金曜日 9:00～17:45

(祝日および弊社休業日を除く)

* お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

北海道サービスステーション

〒064-8543

札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内

FAX 011-512-6109

首都圏サービスセンター

〒143-0006

東京都大田区平和島2丁目1-1 京浜トラックターミナル内
14号棟A-5F

FAX 03-5762-2125

名古屋サービスセンター

〒454-0058

名古屋市中川区玉川町2丁目1-2 ヤマハ(株)名古屋倉庫3F
FAX 052-652-0043

大阪サービスセンター

〒564-0052

吹田市広芝町10-28 オーク江坂ビルディング2F

FAX 06-6330-5535

九州サービスステーション

〒812-8508

福岡市博多区博多駅前2丁目11-4

FAX 092-472-2137

*名称、住所、電話番号などは変更になる場合があります。



ヤマハデジタル楽器・DTM製品ホームページ
<http://www.yamahasynth.com/jp/>

ヤマハマニュアルライブラリー
<http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/>

あなたの音楽生活をフルサポート ミュージックイークラブ
<http://www.music-eclub.com/>